

一人一人のよさを未来へつなぐキャリア教育の在り方

—— カリキュラム・マネジメントの視点を通して（2年次） ——

長 浜 朝 子 ・ 永 吉 和 紀 ・ 寺 井 俊 博 ・ 後 藤 直 樹
 渡久地 伸 一 ・ グレイ 雅 美 ・ 前 城 優 子 ・ 高江洲 奈
 湧 川 博 美 ・ 比 嘉 利 博 ・ 我如古 香奈子 ・ 新 城 啓 弥
 中 村 円 ・ 土 持 敬 子 ・ 比 嘉 雅 美 ・ 西 田 敦 子
 佐久本 厚 ・ 真喜屋 篤

キーワード キャリア教育 キャリア教育で身に付けさせたい4つの力
 生きる力（資質・能力） 社会に開かれた教育課程 学校教育目標
 学ぶ意義 学び・育ちの実感 カリキュラム・マネジメント
 主体的・対話的で深い学び 沖縄県キャリア教育の基本方針
 特別活動を要としたキャリア教育 学級活動・HR活動(3)



I はじめに ～1年次の研究を踏まえて～

1年次の研究では、研究テーマである「一人一人のよさを未来へつなぐキャリア教育の在り方」とは何かについて理論研究を進め、「育みたい資質・能力の明確化」「学ぶ意義」「学び・育ちの実感」「キャリア教育の4つの力」をキーワードに、各学校において取り組むべきキャリア教育の方向性をカリキュラム・マネジメントの視点を通して示すことができた。また、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校へ「キャリア教育」に関する実態調査・意識調査を実施した（回答数：教諭 1619 名、学校(管理者) 430 校）。調査結果から、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校で共通した課題は以下の4点である。

- 1 年間指導計画（小学校・中学校）の内容項目で、「体験活動の事前・事後指導」「キャリア・カウンセリング」の実施率が低い（高等学校・特別支援学校は調査なし）。
- 2 キャリア教育の視点で各教科の授業に「よく取り組んでいる」の回答率が、小学校・中学校・高等学校の教職員で 20%未満、特別支援学校の教職員で 30%未満である。
- 3 特別活動の「児童会・生徒会活動」（小学校・特別支援学校教職員）、「行事」（中学校・高等学校教職員）、「ホームルーム活動」（高等学校教職員）に「よく取り組んでいる」の回答率が、それぞれ 20%未満である。
- 4 すべての校種において特別活動を実施する際は、キャリア教育4つの力のうち「みとおす力」と「ふり返る力」の意識が低い。

2年次にあたる今年度の研究に当たっては、1年次の理論研究と実態調査・意識調査を踏まえ、前年度に引き続き「教科を通じた学び」に加え、今年度は「キャリア教育で身に付けさせたい4つの力」を意識した特別活動の充実を通して、「一人一人のよさを未来へつなぐキャリア教育の在り方」について実践研究を進めていく。

II 研究目的

1年次の研究で構築した理論に基づいて各校種で実践研究を進め、一人一人のよさを未来へつなぐキャリア教育の在り方を提案する。そして、学校・行政機関等が活用できるように見やすく、分かりやすい形で発信することで、学校教育活動の充実や学習指導要領の実施に向けた学校支援に資することを目指す。

III 研究内容

1 1年次研究の概要

(1) これからの時代に求められるキャリア教育の在り方

「キャリア教育」という文言は、平成 11 年中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」において初めて提言された。その後、平成 28 年中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び方策等について」（以下、

平成 28 年答申)においては、「職場体験活動のみをもってキャリア教育を行ったものとしているのではない」「社会への接続を考慮せず、次の学校段階への進学のみを見据えた指導を行っているのではない」などの課題も指摘された。さらに同答申では「こうした課題を乗り越えて、キャリア教育を効果的に展開していくためには、教育課程全体を通じて必要な資質・能力の育成を図っていく取組が重要になる。」と提言し、特別活動の学級(ホームルーム)活動を中核としながら、総合的な学習(探究)の時間や学校行事、道徳科、各教科における学習等、学校教育活動全体を通じてキャリア教育を行うことが求められた。この提言を受け「学習指導要領総則(平成 29・30 年告示)」(以下、総則)では、キャリア教育の充実を以下のように示している(表 1)。

表 1「学習指導要領総則(平成 29・30 年告示) キャリア教育の充実」

小学校	児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。
中学校	生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が <u>自らの生き方</u> を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。(下線は引用者)
高等学校	生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科・科目等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が <u>自己の在り方生き方</u> を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。(下線は引用者)

以上を踏まえ、本研究では、これからの時代に求められるキャリア教育の在り方を「学校教育活動全体を通じて子供たちが学ぶことと自己の将来へのつながりを見通しながら、社会で自立できる『生きる力(資質・能力)』を育んでいくこと」と捉え、研究を進める。

(2) 一人一人のよさを未来へつなぐキャリア教育の在り方とは

① キャリア教育において、一人一人のよさを未来へつなぐとは

今回の学習指導要領改訂で特に重視された点は、社会に出たときに生きて働く力となるよう、「生きる力(資質・能力)」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力として、三つの柱で整理したことである(図 1)。この三つの柱に基づいて、各学校で育みたい「生きる力(資質・能力)」を明確にし、具体的に取り組んでいくことが「キャリア教育」の推進につながる。

平成 28 年答申では、「子供たちに必要な資質・能力を育んでいくためには、各教科等での学びが、一人一人のキャリア形成

やよりよい社会づくりにどのようにつながっているのかを見据えながら、各教科等をなぜ学ぶのか、それを通じてどういった力が身に付くのかという、教科等を学ぶ本質的な意義を明確にすることが必要になる。」と提言している。また、「沖縄県学力向上推進 5 か年プラン・プロジェクトⅡ」(2020)では、学力向上の取り組みとして 3 つの視点を示している。視点 1「自己肯定感の高まり」は「児童生徒が、自分のよさや可能性を認識すること」、視点 2「学び・育ちの実感」は「児童生徒が、学ぶことの意義や価値を実感し、資質・能力を伸ばすこと」、視点 3「組織的な関わり」は学校教育活動の質の向上を図る重要性を述べている。これらのことから、各学校においては「身に付けさせたい資質・能力」の育成を目指して、「学ぶ意義」を明確にし、学びを通して「できた」「分かった」「得意だ」という一人一人のよさや可能性を積み重ねていく学校教育活動に取り組むことが重要となってくる。

本研究では、自分のよさや可能性を認識し、自分のよりよい未来のために成長し続けようとする

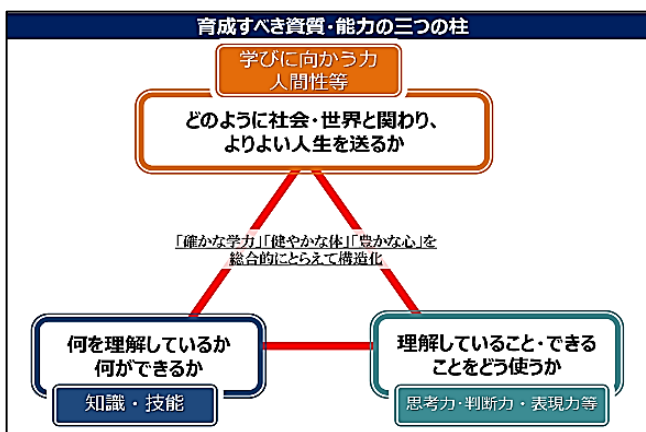


図 1 育成すべき資質・能力の三つの柱

る子供たちの姿を「一人一人のよさ」と捉え、その姿を目指し各学校において、子供たちの学びをどう未来へとつないでいくかという接続の視点を共有し、組織的かつ計画的に実践していく学校教育活動を「一人一人のよさを未来へつなぐキャリア教育」だと考える。

② 一人一人のよさを未来へつなぐ学校・教師の視点について

「沖縄県キャリア教育の基本方針（2020）」（以下、県基本方針）では、平成23年に示されたキャリア教育で身に付けさせたい「基礎的・汎用的能力」を「かかわる力（人間関係形成・社会形成能力）」「ふり返る力（自己理解・自己管理能力）」「やりぬく力（課題対応能力）」「みとおす力（キャリアプランニング能力）」と分かりやすい言葉で示している（表2）。本県が示す「かかわる力・ふり返る力・やりぬく力・みとおす力（以下、か・ふ・や・み）」を、学校教育活動の指導場面において意識することで、その学校教育活動で身に付けさせたい力や活動そのものの捉え直し、見直しが明確になり、「学ぶ意義」や「学び・育ちの実感」を積み重ねていく学校教育活動の工夫・改善につながると考える。

表2 キャリア教育で身に付けさせたい4つの力

かかわる力	ふり返る力	やりぬく力	みとおす力
人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
多様な集団の中で他者とかかわる力、進んで考えや気持ちを伝え合う力、人や地域を大切に思う気持ちや感謝する心、協力する力、社会に参画し、社会を積極的に形成する力など	行動を振り返り、改善につなげる力、自己の役割を理解する力、情報・助言を正しく理解し自分を見つめる力、自分の良いところを見つめる力など	問題を発見できる力、問いを立てる力、課題に対応した計画を立案する力、計画を実行する力、発想（想像）する力、間違いや他人との違いをおそれない力、最後まで粘り強くやり通す力など	将来を想像する力、自分の目標を設定する力、目標設定のために計画を立てる力、立てた目標を確認し次につなげる力、自ら主体的に判断して、キャリアを形成していく力など

(3) カリキュラム・マネジメントによる学校教育の工夫・改善

① カリキュラム・マネジメントについて

今回の改訂においては、子供たちが変化の激しい社会を生きるために必要な資質・能力とは何かを明確にし、その資質・能力を学校教育だけで育むのではなく、社会と共に連携・協働しながら育む必要性が示されている。この「つなぐ」という接続の意識を持った学校教育活動がキャリア教育であり、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて重要となってくる。

「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、子供たちにこれからの時代に必要な資質・能力を育んでいくためには学校教育の改善・充実が必要となるが、その手立てとなるのが「カリキュラム・マネジメント」である。カリキュラム・マネジメントの目的は学校教育目標の実現である。その学校教育目標の実現に向けて、「教科等横断的な視点」「PDCAサイクル」「人的・物的資源の活用」の3つの側面を手立てとし、学校教育全体を工夫・改善しながら教育活動の質の向上を図ることが求められている。カリキュラム・マネジメントは、キャリア教育に取り組む際に、子供たち一人一人のよさを未来へつなぐために、教育活動の質の向上をどのように図るとよいのか、「つなぐ」という接続の視点のより具体的な手立てとなる。

② 授業改善を柱としたキャリア教育について

県基本方針の中でも、キャリア教育の推進ポイントとして「教科を通じた学び」「地域・企業等と連携した体験活動等を通じた学び」「児童生徒の学びをつなぐ」の3つを示し、学校教育活動全体で取り組むことの重要性を示している。各学校においては、発達段階や学校の実態に応じて、どの学校教育活動を軸としてキャリア教育に取り組むか、教師間で共有しながら組織的・計画的に実施することが重要である。

本研究では、授業「教科を通じた学び」に焦点を当て実践研究を進めていく。その理由としては授業が学校教育活動の柱であり、子供たちが最も多くの時間を費やす場となるからである。日々の授業を通して、子供たちが「できた」「分かった」という自己のよさや可能性を「学び・育ちの実感」として積み重ねながら「学ぶ意義」を実感できたなら、その日々の授業が「生きる力（資質・能力）」を育む基盤となるであろう。

2 2年次の研究内容：「特別活動を要」とするキャリア教育の在り方とは

特別活動は、「学級活動・ホームルーム活動(1)(2)(3)」や「児童会・生徒会活動」、「クラブ活動（小学校のみ）」、「学校行事」で構成され、様々な集団活動を通して児童生徒の資質・能力を育成すること

が重視されている。今回の学習指導要領改訂では、「特別活動を要としたキャリア教育の充実」が示された。特別活動の時間を、各教科等や行事などの様々な活動をつなぐ場として充実させていくことが、教育活動の質の向上につながり、キャリア教育の推進にもつながると考える。また、総則では、キャリア教育の効果的な展開について、以下のように示している（表3）。

表3 「キャリア教育の効果的な展開（総則）」

小学校 中学校 高等学校 特別支援学校	キャリア教育を効果的に展開していくためには、特別活動の学級活動／ホームルーム活動を要としながら、総合的な学習（探究）の時間や学校行事、道徳科や各教科（公民科に新設された科目「公共」をはじめとする各教科・科目）における学習、個別指導としての教育相談等の機会を生かしつつ、<u>学校の教育活動全体を通じて必要な資質・能力の育成を図っていく取組が重要になる。</u>（中略） さらに、本改訂では特別活動の学級活動／ホームルーム活動の内容に（3）一人一人のキャリア形成と自己実現を設けている。（後略） （下線は引用者）
------------------------------	---

下線部より、総則における「特別活動を要としつつ」は、学級活動・ホームルーム活動の「（3）一人一人のキャリア形成と自己実現」（以下、「学級活動・HR活動（3）」）と解釈することができる。このことから、キャリア教育は、「学級活動・HR活動（3）」を要として充実を図る必要がある。

今回の改訂により小・中・高等学校に共通して新設されたのが、「学級活動・HR活動（3）」である。これは、教育活動全体の取り組みをキャリア形成につなげていくための中核的な時間として位置付けられた。要となる「学級活動・HR活動（3）」の内容は、「学習指導要領（平成29年・30年告示）解説 特別活動編」（以下、解説特別活動編）には、次のように示されている（表4）。

表4 「学級活動・HR活動（3）の内容（解説特別活動編）」

	学級活動・HR活動「（3）一人一人のキャリア形成と自己実現」の内容
小学校	ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成 イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解 ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用
中学校	ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用 イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成 ウ 主体的な進路の選択と将来設計
高等学校	ア 学校生活と社会的・職業的自立の意義の理解 イ 主体的な学習態度の確立と学校図書館等の活用 ウ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成 エ 主体的な進路の選択決定と将来設計

本内容は、子供たちの将来に向けた自己実現に関わるものである。一人一人の主体的な意思決定に基づく実践活動にまでつなげることをねらいとしており、小学校から高等学校へのつながりを考慮しながら、発達段階に応じた適切な内容が設定されている。つまり、子供たちの発達段階に対応して構成する項目は異なっているが、すべての学校段階を通じて「学級活動・HR活動（3）」が「今」と「将来」をつなぐ重要な役割を担っている点は同じである。

ところで、本内容はキャリア教育の要として重要な役割を担うものであるが、藤田晃之（2018）は『『要』の語義を踏まえる必要がある』と指摘している。「要」は「扇の骨を綴じるため、その末端に近い部分に、小さい穴をあけてはめ入れる釘。（広辞苑）」「扇の骨を留めるのに用いる釘。また、扇の骨を留める場所。（大辞林）」を意味する言葉である。教育活動全体を扇に例えると、「学級活動・HR活動（3）」は扇の要に位置しているといえる。これは、特別活動が各教科等における学びを、つなぐ時間であるとともに、特別活動の学びが各教科等の学習を行う上での土台となるといった往還的な関係にあるからである。扇には「扇面と骨」が不可欠であり、それがばらばらにならないようにつなぎ止めるのが「要」の役割である。また、「要」だけの扇が存在しないように、教育活動全体を通じた豊かなキャリア教育の実践（扇面と骨）があつてこそその「要」である。つまり、学校内外の様々な学び（扇面と骨）をつなぐ役割（要）が「学級活動・HR活動（3）」であると捉える。

しかし、「学級活動・HR活動（3）」を実践すればキャリア教育を行ったことになるわけではないことに留意する必要がある。例えば「学級活動・HR活動（1）」で、楽しく豊かな学級・学校生活にするために学級会で話し合い、協力して実践することや、「学級活動・HR活動（2）」で日々の生活向上のため、一人一人が自らの生活や学習の目標を決め、実現に向けて取り組むことは「かかわる力」や「ふり返る力」を育むことができる。また、音楽発表会（学校行事）に向けて、学級として必要なことについて話し合い、合意形成し意思決定したことに取り組むことも、「やりぬく力」や「みとおす力」な

どの基礎的・汎用的能力を育み、子供たちのキャリア発達につながる。このように、子供たちは、各教科等の学習だけでなく、話し合い活動や委員会活動、学校行事などの学校生活や、家庭・地域における生活の中でたくさんのことを学んでいる。そうした中で育まれたキャリア教育に係る基礎的・汎用的な能力を、特別活動の実践を通して実生活や実社会で生かし、子供たち自らのよさや成長に気付いたり、解決すべき課題を自覚したりすることができるようにすることが大切である。しかし、それぞれの活動がばらばらに行われていては、子供たちにキャリア形成を自覚させることは難しい。そこで「学級活動・HR活動(3)」の授業で、学びをつなぎ深めるとともに、学びのつながりを意識させる必要がある。また、これまでの活動を振り返って学び・育ちの実感を積み重ねたり、新たな学習や生活への目標に向かって前向きに努力したり、将来の生き方について考えることができるようにすることが求められている。

以上のことから、「特別活動を要」としたキャリア教育の在り方とは、「学級活動・HR活動(3)」を要に各教科や行事等での学びや気づきをつなげ意識化させることと捉えることができる。また、「学級活動・HR活動(3)」を要とし、教育活動全体で取り組むキャリア教育のイメージ図を、藤田（2020）を基に作成した（図2）。

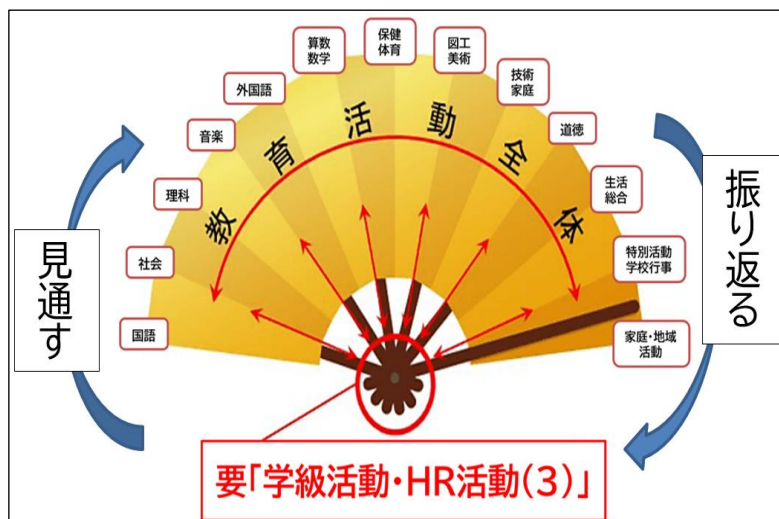


図2 「『学級活動・HR活動(3)を要』としたキャリア教育のイメージ」

IV 実践研究

本年度は、1年次に構築した理論に基づき、「キャリア教育の4つの力（か・ふ・や・み）」を「学び・育ちの実感」を育むための具体的な授業改善の視点として捉え、教科における実践研究と、前述した特別活動における実践研究を研究協力員（表5）及び研究協力校（表6）と共に進める。

表5 研究協力員

研究協力員	所属校	教科	掲載
教諭 末 吉 祐太郎	宜野湾市立長田小学校	特別活動・総合	実践事例1 (P6～11)
教諭 伊良波 敦 教諭 高江洲 英 知	嘉手納町立嘉手納中学校	数学・特別活動	実践事例2 (P12～21)
教諭 玉那覇 功	沖縄市立コザ中学校	特別活動・音楽	実践事例3 (P22～28)
教諭 仲宗根 里 菜	沖縄市立コザ中学校	外国語	実践事例4 (P29～32)
教諭 池宮城 志 織	県立那覇西高等学校	保健体育	実践事例5 (P33～36)
教諭 金 城 敦 子	県立北中城高等学校	芸術（音楽）	実践事例6 (P37～40)
教諭 与那覇 伊 代	豊見城市立上田こども園	協同あそび	実践事例集 (Web 掲載)
教諭 上 原 康 史	県立那覇工業高等学校	工業	実践事例集 (Web 掲載)

表6 研究協力校

研究協力校	研究協力員	教科	掲載
県立はなさき支援学校 校長 大城 麻紀子	教諭 池原 奈津希 (小)	国語	実践事例7 (P41～48)
	教諭 長浜 洋平 (中)		
	教諭 與那覇 尚子 (高)		

実践事例1

宜野湾市立長田小学校

希望や目標をもち、自己実現を図ろうとする態度を育む指導の工夫			
◆実施学校名	宜野湾市立長田小学校	◆学 年	第6学年
◆教 科 名	特別活動【学級活動(3)】	◆時間数	第3・4時/全5時
◆題 材	「夢の実現と学びをつなげるために～先輩から学ぼう～」		
◆単元目標			
(1) 働くことや学ぶことの意義を理解するとともに、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要なことを理解し、行動の在り方を身に付けるようにする。【知識及び技能】			
(2) 自己の生活や学習の課題について考え、自己への理解を深め、よりよく生きるための課題を見だし、解決のために話し合って意思決定し、自己のよさを生かしたり、他者と協力したりして、主体的に活動することができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】			
(3) 現在及び将来にわたってよりよく生きるために、自分に合った目標を立て、自己のよさを生かし、他者と協働して目標の達成を目指しながら主体的に行動しようとする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】			



キャリア教育の視点

ふり返る力	みとおす力
・自分のよさに気づき、学校生活に生かそうとすることができる。 ・行動を振り返り、改善につなげることができる。	・自分を高めるために、めあてをもって取り組むことができる。 ・自身の課題解決に向け、計画を立てることができる。

カリマネ3つの側面

(○)教科等横断的な視点

(○)PDCAサイクル

(○)人的・物的資源の活用

Plan (指導計画)

教師の意図

- ・自身で決めた目標を実践し、定期的に振り返ることで、自分の成長を感じてほしい。
- ・行動を振り返り、見直すなど、自身でPDCAサイクルを回せるようになってほしい。

教師の手立て

- ・地域人材を活用する。
- ・講師から学校の学びがどのように生きているかについて話を聞き、現在の仕事と学習のつながりについて話し合う時間を設定する。
- ・教科等横断的な視点(総合との関連)による学習活動を展開する。

目指す児童の姿

- ・働くことや学ぶことの意義を理解し、自分に合った目標を立て、自己の良さを生かし、目標の達成を目指しながら主体的に行動しようとする姿。

■6学年の単元配列表

総合的な学習の時間と学級活動(3)を軸に、単元配列表を作成。
学年広場に掲示することで学習の繋がりを可視化し児童にも意識付ける。

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	始業式 入学式			終業式	始業式		運動会	終業式	始業式	修学旅行	卒業式
総合的な 学習の時間				職業 インタビュー	講話① 「夢までの 道のり」	講話② 「物流から 学ぶ」	職業調べ	職業調べ	職業 新聞作り	エントリー シート	新聞発表
特別活動 学級活動(3)	キャリア・ パスポート ドリーム ウォール	学級目標を 決めよう		キャリア・ パスポート 夏休みの過 ごし方	キャリア・ パスポート 夢の実現に 向けて	進んで 取り組む 自主学習	中学校へ 家庭学習を 繋げよう	キャリア・ パスポート	キャリア・ パスポート	もうすぐ 中学生 先輩に学ぶ	キャリア・ パスポート
道徳	松井さんの 笑顔	夢に向かって -三浦雄一郎-	本屋の お姉さん	世界が おどろく 七分間清掃	広村堤防の 清掃ボラン ティア	技術で 「障がい」を なくしたい					わたしは ひろがる
教科等	家 わたしの 生活時間 特 委員会活動 1年生の手伝い				国 私たちに できること	国 私たちに できること 国 みんなで 楽しく 過ごすために	国 私たちに できること 国 みんなで 楽しく 過ごすために	国 私たちに できること 国 みんなで 楽しく 過ごすために	国 私たちに できること 国 みんなで 楽しく 過ごすために	国 私たちに できること 国 みんなで 楽しく 過ごすために	国 私たちに できること 国 みんなで 楽しく 過ごすために

■単元の指導計画

1	事前指導(アンケート等)
2	総合での学び:講話①⇔学活(3)ア
3	総合での学び:講話②⇔学活(3)ウ
4	意思決定
	決めたことの実践・振り返り 事後指導(アンケート等)
5	総合「職業調べ」⇔学活(3)ウ 振り返り

単元を学ぶ意義

講師の仕事と学習のつながりについて話し合う活動を位置付け、自分の夢の実現に必要な学習について考えることを通して各教科等を学ぶ意義を理解し、主体的に行動し、自己実現を図ろうとする態度を育む。

* 本時の実践の前に、出前講座「物流から学ぶ」を実施。



人的・物的
資源の活用



Do (実践研究)

第3時のねらい:今の学習が将来につながることに理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにする。

【第3時(学級活動)】

過程	学習の流れと児童の活動	キャリア教育の視点
導入 つかむ	1. 自分の夢について確認する。 2. めあてを立てる。 宮城さんの話から、自分の できることを見つけよう 料理人 家で色々な料理をする 保育士 3才のいとこのお世話 ヘアメイク 色々な髪型に挑戦 プロデューサー バドミントンで体幹をきたえる 建築士 家の見学、構造物の絵をかく サッカー選手 毎朝走って体力づくり	みとおす力 出前講座での講師の話と 関連付けためあてを立て ることで、学習の見通しを もつことができる。
展開 さぐる	3. 宮城さんの仕事と教科の学習とのつながりをグループで考える。 【算数】 時間の計算 【保健】 体調管理 本を読む力、読解力は 大切です。 天気図を読む力も大事です。台風が 来る前に、ドライバーを安全に会社 に戻す必要があるからです。 4. 自身の夢や目標と教科の学習とのつながりを考える(イメージマップ)。 自分で考える 友達のイメージマップを見て 気付いたことを話し合う	ふり返る力 自分自身の夢と学習の 繋がりを考えて振り返る ことができる。 かかわる力 相手の話を聴くことがで きる。自分の考えを伝え ることができる。
終末 決める	5. 自己実現に向けて、これからの取組について考える。 どこで自分を 磨こうか？ がんばり ノートで。 6. 本時を振り返り次時の 学習について考える。 将来の夢に向けてがんばり ノートでどんなことをするのか？ 内容を考えたい 次回、計画 を立てよう めあて 宮城さんの話から自分のできることを見つけよう。 2. 夢や目標に向かってどう取り組むのか、 日頃の学習と結びつけながら考えよう。 将来の夢 ファッションデザイナー みとおす力 叶えるために 授業や日常の生活で色々 な人の意見を聞いて、吸収 する。家庭学習で自分を のびす学習をていねいに がんばる。図工で習った 技法を家でも試してみる。	みとおす力 夢や目標に向かって何に 取り組めばよいかをイメ ージマップをもとに考え ることができる。

過程	学習の流れと児童の活動	キャリア教育の視点									
導入	1. 前時を振り返り、めあてを立てる。 将来の夢をかなえるための家庭学習の計画を立てよう										
展開	2. 代表児童のイメージマップをもとに、どのような学習が必要かをみんなで考える。 ふり返る力 めあて 将来の夢をかなえるための家庭学習の計画を立てよう ① 時間管理 → かんぽノート ② 勉強 → 辞書、あさつ ③ 創作力 → 漫画雑誌 ④ パソコン・タブレット → 絵を描く 3. 自分のイメージマップをもとにして、学習計画を立てる。 4. 立てた学習計画をペアで確認し、アドバイスし合う。 みとおす力 自分に合った取組を考える かかわる力 ペアでアドバイスし合う	ふり返る力 現在の家庭学習に対する取組を振り返ることができる。 みとおす力 自分が取り組む内容や方法を具体的に考えることができる。									
終末	5. 話し合いを受けて、自己決定する。 完璧に学ぼう part. 2 6年 男子 名前 めあて 将来の夢をかなえるための家庭学習の計画を立てよう 自分のイメージマップをもとに、必要な学習について書き出してみよう 例：①読書の習慣をつける。想像力を養う。 ②本を読むときにメモをとる。 ③英語の勉強をする。 ④流行歌を知りたいので、歌詞集を買って読む。 ⑤お母さんや先生のアドバイスを聞き入れる。 ⑥パソコンを使う練習をする。 そのためにどんな学習に取り組まなければならない？ 達成するための計画を立てよう <table><tr><th>10月20日(木)</th><th>10月21日(金)</th><th>10月22日(土)</th><th>10月23日(日)</th><th>10月24日(月)</th></tr><tr><td>色んな本の感想を書く。</td><td>「かんぽ」の勉強をする。</td><td>日本語の文や単語の勉強をする。</td><td>英語の文や単語の勉強をする。</td><td></td></tr></table> がんばりノート以外の取り組み：大きな声で笑顔をあげ、最近の流行を知る。(SNSなど) みとおす力 継続して実践するために、具体的な計画を立てることができる。	10月20日(木)	10月21日(金)	10月22日(土)	10月23日(日)	10月24日(月)	色んな本の感想を書く。	「かんぽ」の勉強をする。	日本語の文や単語の勉強をする。	英語の文や単語の勉強をする。	
10月20日(木)	10月21日(金)	10月22日(土)	10月23日(日)	10月24日(月)							
色んな本の感想を書く。	「かんぽ」の勉強をする。	日本語の文や単語の勉強をする。	英語の文や単語の勉強をする。								

Check (児童の変容・成長)

1. 第3時の振り返りより(下線は引用者)

3. ふり返り
(①今日の学習で気付いたこと ②友達のことを聞いて ③今日の学びをどう生かすか)

どんな人も、自分の仕事にほりを付けて、楽しさを見つながら働いていると分かった。郵便配達の仕事では、朝早くから出勤して、体調管理を怠らなくて事故防止を心がけたり、傷がつかないよう郵便物を丁寧に扱ったりと、お客さんへの思いやりがあった。また、物流がとまってしまうと、スーパーから物がなくなってしまうため、重要な仕事をしているほりと責任感を帯びて働いているんだと感じた。思いやりやほり、責任感などは、どんな仕事にも通じるものだと思うので、自分が将来仕事をするときも、ほりが持てる仕事について、うと思った。

働くことの意義や働く人の思いを感じ取ったり働く意味について考えたりする姿が見られる。

3. ふり返り
(①今日の学習で気付いたこと ②友達のことを聞いて ③今日の学びをどう生かすか)

今日の学習で気付いたことは、日ごろの家庭学習などのいつもやっていることに、工夫、改善すること、そして目標をもって行なうことが大切なんだということでした。また、今やっている教科書も将来を担う子どもたちを育てるために学習しているんだということも感じました。今日の学習を今後どう生かそうかという、中学高校で将来の夢が決まるときに、その夢をかなえるために足りないものを身につけて、今のことを活用できたらいいなと思っています。

イメージマップ作成を通して、工夫・改善→目標、というPDCAサイクルの意識と、学び意義を感じた姿が見られる。

2. 「みとおす力・ふり返る力」による児童の変容

自分で計画した家庭学習

宿題	④P2日記 ②枚	④P2日記 ①枚	④P2日記 ①枚	④P2日記 ①枚	自由のときに タビタビについて と今は英語を勉強している。 タビタビののびを知って、少し速くなりたい。 次は、英語がもっとできるのがいい。
漢字練習	50問テストプリント	50問テストプリント	50問テストプリント	50問テストプリント	
拡大図と縮図(日記)				拡大図と縮図(日記)	
英語					英語
英語					英語
英語					英語
英語					英語

家庭学習計画表

家庭学習ノートより

ヘアメイクの調べ学習II

必要資格
・美容師免許(国家資格)
・JMAメイクアップ技術検定(4級、3級)
・着付(初伝・中伝)
認定フェイシャルエステティシャン

求められるスキル・資質
・美容:ヘアスタイルへの興味や向上心
・接客スキル・時間管理能力
・コミュニケーション力

「人ト喜んでもらいたい」という気持ちで仕事ができる人。また、時間に厳し世界でもあるため、時間を守れる人、限られた時間でスピーディに仕事ができる人が向いている。

どういふ人を目指せばいいのヒントにもなるね!!

将来なりたい職業についての調べ学習

“協力”とは?

自分の体験したこと
・ミシンを縫うとき、友達に協力して成功させたこと。
・プールで泳げなかったばかりを、友達に泳ぎ方を教えてくれたこと、25m泳ぐことができた。など。

協力とは... (Wiki参照)
目的は向かい、心を合わせ努力すること。
自分の思い、ていた協力。
・人と人が力を合わせて行動すること。もしくはその目的に取り組みすること。
調べたことからは、協力とは、心を合わせること。力ではなく、心を合わせると書いてあった。
・以外と簡単なことなのに、あえてみえて難しかった。

自分の体験とフリー百科事典で調べたことを踏まえ、「協力」について自分の考えを深めている姿

【担任の見取りより】

家庭学習: 内容の変化

○以前は、家庭学習で漢字練習をする児童が多かったが、計画表の活用を始めてから自分に必要な学習をする児童が増えてきた。

計画表を作成したら、自分の目標を明確にして実行することができました。(振り返りシートより)

※アンケート項目「自分で計画を立てて家庭学習をしている」では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した児童の割合が、実践後は約13ポイント増加し、93.5%となった。

行動の変容

○運動会のリレー練習では、チームで練習の計画を立て、練習を振り返る姿があった。

バトンの受けわたしが少しダメだったところ、バトンを取るとき走り方がよくなかったので、そこを改善したい。(Aチームのリレー記録より)

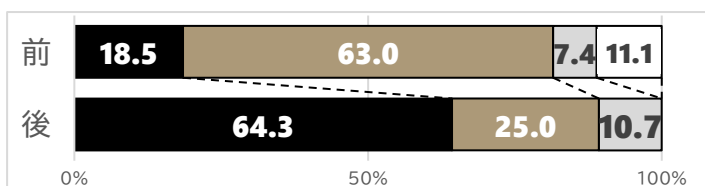
目的意識を持って学習に取り組む姿や、主体的に行事に取り組む姿が見られるようになり、変化を感じています。



3. 実践前後アンケートより(児童数31名)

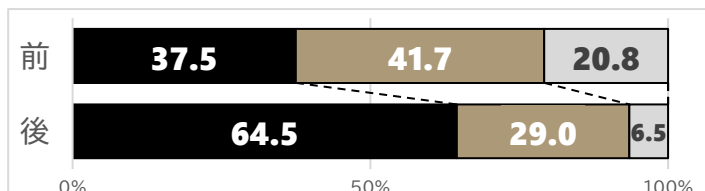
(凡例) ■当てはまる □どちらかといえば当てはまらない ■どちらかといえば当てはまる □当てはまらない

(1) 今、学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えている。



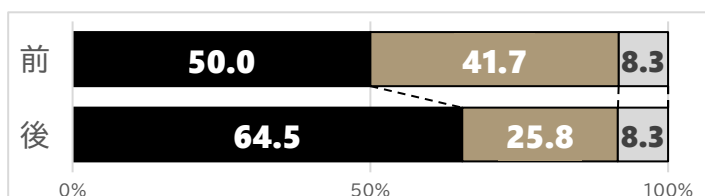
「当てはまる」と回答した児童は、実践前と比べて約46ポイント増加した。「仕事と学び」のつながりを可視化したことや、各教科等で「今日の学習はどんな時に使えそうか」等、学びと日常を関連付ける発問により、将来の夢や目標と教科の学習とのつながりを意識し始めたと考えられる。

(2) 自分の将来の目標のために、生活や勉強の仕方を工夫している。



(2)の項目に「当てはまる」と回答した児童の割合は、実践後は27ポイント増加した。家庭学習の計画を立てる際、将来の夢につながる内容や、今、自分に必要な学習は何か等、友達と話し合う活動を通じて工夫する視点を持てるようになったと捉える。

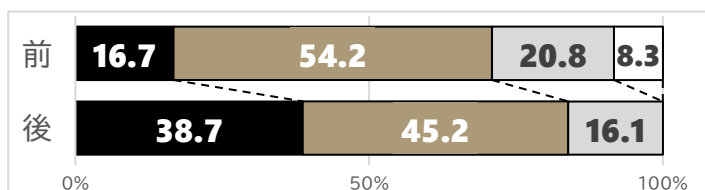
(3) 自分の行動を振り返り、改善につなげることができる。



(3)の項目に「当てはまる」と回答した児童は、実践前と比べて14.5ポイント増加した。計画表を活用して計画を可視化したことで、「先週と違って授業の復習ができた」等、取組状況を俯瞰して振り返ることができたと考えられる。

(2)(3)の項目に「どちらかといえば当てはまらない」と回答している児童は、「家庭学習を続けることが目標」となっているため、本人の考えを認め、取組を価値づけるようにした。

(4) 自分の良いところに気が付き、学校生活に生かそうとしている。



「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した児童は、実践前と比べて13ポイント増加した。一方、「どちらかといえば当てはまらない」と回答する児童が16%いることから、自分のよさに気付いたり自覚したりできるような取組や支援が必要である。

Action (成果と今後に向けて)

■ 成果

出前講座「物流から学ぶ」(総合的な学習の時間)での学びを学級活動(3)と関連付け、自身の夢や目標と教科学習のつながりを考え、話し合い、イメージマップにしたことで、児童が将来の目標と学校での学びのつながりを意識し始めた。そのことにより、「なりたい自分」を目指し、目的意識を持って家庭学習に取り組んだり内容を工夫したりする等、学びが自分事となり、主体的に学習に取り組むようになった。

■ 今後に向けて

消極的な回答をしている児童に対しては、個々の実態に合わせて「まずは続ける、次は内容を工夫する」等、スモールステップによる取組で目標達成ができるよう支援していく。また、教育活動全体を通して、児童が今の学びと将来の夢をつなげられるよう、継続して声かけや働きかけを行う。

キャリア教育の

教科の中に潜んでいる タネ

- 仕事で免許を取ったり、契約書の内容を確認したりする時に、読解力が必要になる。
- 無人運転、ドローン配送も増えるため、ICT教育は、配送・物流業界でも活用できる。
- 今、学習していることは、どの教科も、どんな仕事にもつながっている。

仕事に い・か・す

ー「物流」のお仕事
宮城さん(第3時の講師)ー

トラックドライバーの免許を取る時は試験もあります。
書かれていることを理解することはものすごく大事なことで、「本を読む力、読解力」は仕事でも大切です。

実践事例2

嘉手納町立嘉手納中学校

課題に対し見通しを持ち、 自分の考えを表現する生徒の育成 ～学習規律(聴く姿勢)の徹底と 友達との学び合いを通して～		課題に対し見通しを持ち、 最後までやり抜く生徒の育成 ～既習事項の確認と友達との学び合いを通して～	
第1学年	◆学 年	第2学年	
数学	◆教科名	数学	
比例と反比例(22 時間)	◆単元名	平行と合同(15 時間)	
◆単元目標		◆単元目標	
・ 比例、反比例として捉えられる二つの数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだすことができる。 ・ 比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。 ・ 比例、反比例のよさに気付いて粘り強く考え、比例、反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、比例、反比例を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。		・ 平行線や角の性質を理解している。 ・ 多角形の角についての性質が見いだせることを知っている。 ・ 基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質をもとにしてそれら確かめ説明することができる。 ・ 平面図形の性質のよさを実感して粘り強く考え、平面図形の性質について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。	



キャリア教育の視点

第1学年		第2学年	
か か わ る 力	聴く力の育成 全体、ペア・グループ活動において、自分の考えを相手に伝え、相手の考えをしっかりと聴くための姿勢を整える。	み と お す 力	問題把握の場面で見通しを持つ 課題解決のための見通しを既習事項や友達との対話を通して修正しながら、課題解決の方法を見つけることができる。
	自分の考えを表現する力 友達との学び合いから、自分の考えを深め、できたところまでを記述や発表等で表現する。		見通し(解法手順)のもと粘り強く取り組む 見通し(解法手順)のもと、課題に対し、既習事項や友達との対話を通して、最後まで粘り強く取り組むことができる。
や り ぬ く 力		や り ぬ く 力	

Plan (指導計画)

単元前		レディネステスト(振り返り・目標) 事前アンケートの実施
1年	1～22	第4章 比例と反比例(全 22 時間)
2年	1～15	第4章 平行と合同(全 15 時間)
単元後		単元テスト・事後アンケートの実施 単元全体の振り返り⇄学活(3)ア 振り返り

単元のゴール

- ・単元前のレディネステストや単元に向けての目標を立て、授業に対して意欲的に取り組む態度を育む。
- ・小单元ごとの振り返り、単元テストや単元終了時の単元全体の振り返りを行うことで、自分自身の学びや理解、数学的な考え方の変容に気付き、次につなげる姿勢を育む。

カリマネ3つの側面

()教科等横断的な視点

(○)PDCAサイクル

()人的・物的資源の活用

第1学年(比例と反比例)

教師の意図

- ・友達との学び合いで、他者の考えのよさに気付くことができる。
そのための学習規律(聴く姿勢)の徹底を図る。
- ・友達との関わりで、自分の考えが深まり、その考えを記述や発表につなげる。

教師の手立て

- ・学習規律(聴く姿勢)の徹底
- ・ペア・グループ活動等の学び合いにおいて、気付いたことなどをノートに書かせる工夫
- ・自分の考え等、書く時間の確保

目指す生徒像

- ・話し手の方をしっかりと向いて話を聴く生徒
- ・友達との学び合いを通して自分の考えと比較し、深めている生徒
- ・自分の考えを表現する生徒

Do (実践研究)

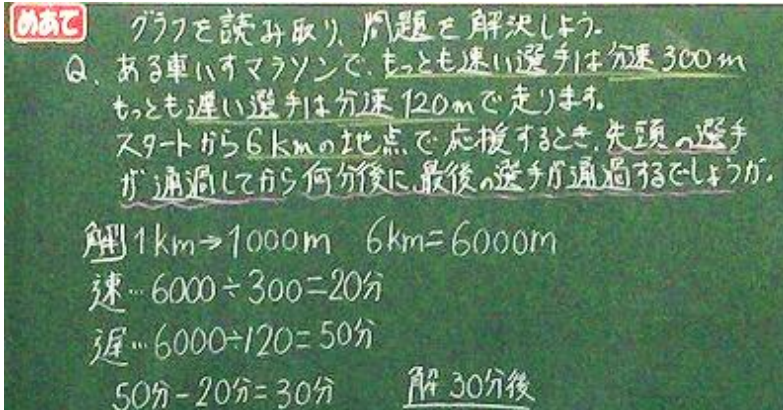
單元開始前

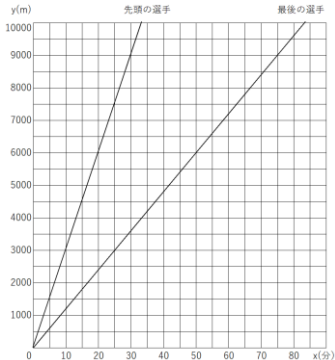
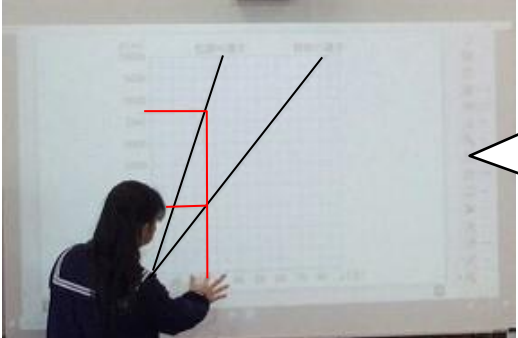
レディネステストを行い、小学校で学習した「比例」を思い出し、理解度の確認をする。そして、これから学ぶ学習に向けての目標を考えることで、見通しを持って学習に取り組むことができる。

[illegible]

授業実践 ▶ 【第19時】

ねらい:身のまわりの問題を、比例のグラフを利用して解決することができる。

過程	学習の流れと生徒の活動	キャリア教育の視点
導入	1. 車いすマラソンの写真を電子黒板で紹介する。 2. めあての確認 めあて グラフを読み取り、問題を解決しよう。 計算による解法を発表したが、イメージができない生徒のために、グラフによる解法を提示することで、イメージしやすくなるだろう。 	・教科書問題であるが、電子黒板に写真を提示することで生徒の興味関心を持たせる。 <u>みとおすすめ</u> イメージが持てない生徒のために、グラフを使うことを提案することで、イメージを持たせ、問題を解くことができる。

展開	3. グラフを電子黒板に表示  めあてが「グラフを読み取り」なので、「先頭の選手」「最後の選手」のグラフはあらかじめ書き入れておく。 「時間と走った距離」の関係を確認する問題を問①で生徒に問う。 4. 問題提示 ① 「先頭の選手」が点(10, 3000)を通っているのは、車いすマラソンの場面ではどのようなことを表していますか。 5. 発表 ② 選手が出発してから25分後には、2人の選手はどのくらい走っていますか。 $7500 - 3000 = 4500$ 4500m 走っていますか。  「式」と「答え」を答えた生徒とは違う生徒が説明する。	<u>やりぬく力</u> 「グラフを活用したら解けそう」という見通しと「グループ活動」を通して、自分の考えと友達の考えの異同を見直ししながら最後までやり抜くことができる。 <u>かかわる力</u> 「式」と「答え」を答えた生徒とは違う生徒に説明させることで、子供たちは黒板に書いてある内容を理解しようと真剣に見るようになる。そのことから、発表している友達の話の理解が深まる。
終末	6. まとめ まとめ グラフを利用すると、全体がみえるので計算せずに、x座標やy座標に着目すれば答えが分かる。	<u>ふり返る力</u> 生徒の言葉でまとめた「まとめ」を全体で振り返ることで、導入で考えた見通しが正しかったことを再確認することができる。

単元終了後

単元開始前

小学校での「比例」の学習と
レディネステストを振り返って

意外とできた

単元前後の振り返りのねらい

小学校での「比例」の学習と単元テストを振り返り、点数だけで自己評価するのではなく、自分自身の数学に対する見方や考え方の変容を振り返ることができる。

単元終了後

「比例と反比例」の学習と単元テスト
を振り返って

むずかしかった比例が意外とできるようになった。

反比例はもともとできていたがもっとできるようになった。

単元テストは、xとyの変換がよくなりました、そこをもっと勉強したい。

生徒の変容と分析

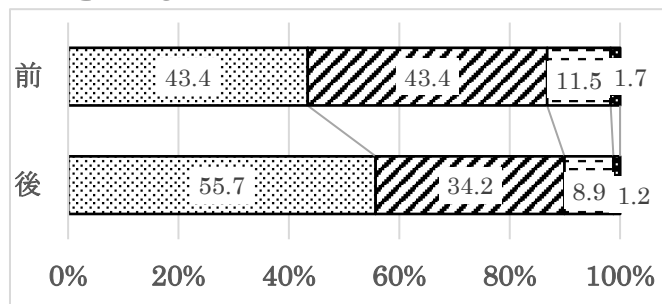
単元前では「意外とできた」のみの記載であったが、単元終了後では、できなかった所を具体的に示しながら振り返ったり、また新たな目標を考えたりする様子が見られた。

Check（生徒アンケートと振り返り）

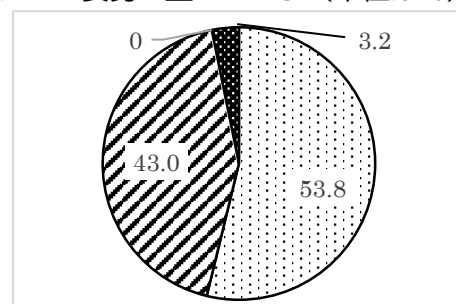
1. 実践前後の生徒アンケートより（調査時期と生徒数：10月 113人・12月 106人）

■当てはまる ■どちらかといえば当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

- (1) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる



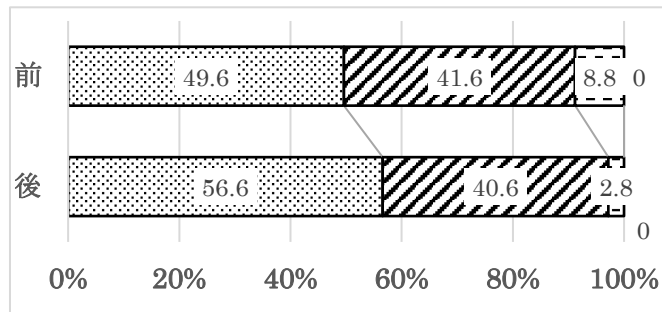
- (2) 全体、ペア・グループ活動において、自分の考えを相手に伝え、相手の考えをしっかりと聴くための姿勢を整えている（単位は%）



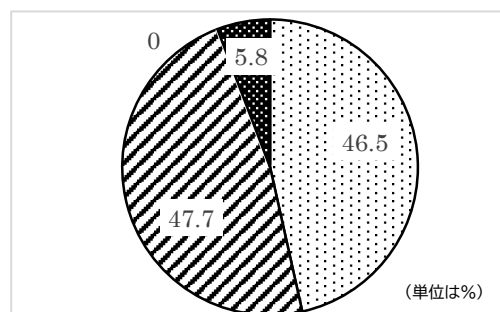
【かかわる力】

(1)において「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した生徒が、事前より 3.1 ポイント増加し 89.9%、(2)の「全体、ペア・グループ活動において、自分の考えを相手に伝え、相手の考えをしっかりと聴くための姿勢を整えている」において、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」という肯定的な回答をした生徒が96.8%となった。これは、本実践での「かかわる力(聞く力)」の育成を視点に授業改善を意識した取組が、自分の考えを相手に伝え、相手の考えをしっかりと聴くための姿勢を整えることになった。その結果、自分の考えを深めたり、広げたりすることにつながったと考えられる。

- (3) 相手が伝えたいことを理解しようとしている



- (4) 友達との学び合いから、自分の考えを深め、できたところまでを記述や発表等で表現している



【やりぬく力】

(3)において「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した生徒が、事前より6ポイント増加し 97.2%、(4)の「友達との学び合いから自分の考えを深め、できたところまでを記述や発表等で表現している」において、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」という肯定的な回答をした生徒が94.2%であった。これは、「かかわる力(聞く力)」の育成が本実践のもう一つの視点である「やりぬく力(自分の考えを表現する力)」につながったと考えられる。

2. 第4章「比例と反比例」の学習を終えての振り返りより（特別活動で振り返りを書いている様子）



プリントや教科書等を見ながら、振り返りを行っている。



単元開始前	単元終了後
小学校での「比例」の学習と レディネステストを振り返って	「比例と反比例」の学習と単元テスト を振り返って
小学校の頃は、比例と反比例 の2つの関係を式に表すのが、 苦手だ、けれど、レディネステストで は、ちゃんと関係を式に表せたの で良かったです。 たまたま、表やグラフが正しく読め なかった、ので、正しく読めるように しました。	比例と反比例の学習で、単元前 より表やグラフから正しく読み取り、 問題をとくことができました。 また、比例や反比例などの、 式からグラフに点などで表す 時、あやふやな所があるので、そこ をなおして生活にいかしていけ たらいいと思いました。

単元前後の振り返りの分析

レディネステストを行い、前学年での学びを振り返り、「表やグラフが正しく読めなかった、ので、正しく読めるようにしたい」という目標を立てることができた。

単元終了後は、その目標を達成し、さらに新しい課題を見つけたり、生活への活用を考えたりする姿が見られた。



かかわる力



やりぬく力

3. 「振り返りシート(学びの足跡)」より

小単元4
19 ~ 22
今日の単元では、比例・反比例を利用して、身の回りの問題を解くことを学びました。このような問題では、 $y=ax+b$ のような式は、また式はないから、自分で比例か反比例かを考えて、式を作る必要があると思いました。また、問題によって、式をつくるのではなく、グラフを作図して読み取る方が、多くの場合、ありますから、頭を動かしてどのような方法で問題をどのように解くかを考える必要があるとわかりました。

図1 Aさんの小単元4の振り返り

小単元4
19 ~ 22
4章で、分かったことは、身のまわりの問題は、ほとんど、比例や反比例、グラフを作って表すと全体が、見えるので、問題が分かりやすくなる。

図2 Bさんの小単元4の振り返り

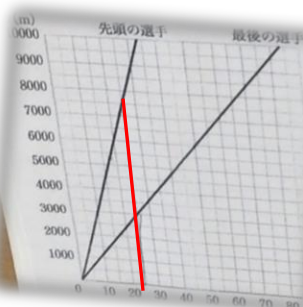
振り返りの分析

(図1)

教科書の「身の回りの問題」は比例、反比例のどちらかを使えば解くことができる。しかし、実際の「身の回り」にある問題はどの関数を使えばいいのかすぐには分からないと振り返っている。そのため、「どの関数なのか判断しなければならない」とじっくりと考える必要があると考えている。

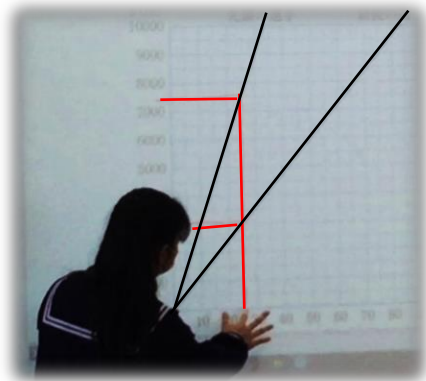
(図2)

グラフを活用すると、全体の様子が見えて、式を使わなくても簡単に考えることができると考えている。



みとおす力

「25 分後の二人の走行距離の差は？」という問いから、まず $x=25$ (分) のところに線を引いて考えてみるという見通しを立てている。



第2学年(平行と合同)

教師の意図

- ・問題解決のための既習事項や解法手順を確認することで見通しを持つ。
- ・見通しを持ったり、自力解決をしたりする中で、友達と関わりながら最後までやり抜いてほしい。

教師の手立て

- ・考えたくなるような課題の精選
- ・個で考える時間とペア・グループでの学び合う時間の設定の工夫
- ・考えが深まる発問の工夫

目指す生徒像

- ・これまでの学びや既習事項を確認、友達との対話の中から問題解決のための見通しを見つけ出し、それをもとに最後まで粘り強く考え解こうとする姿

Do (実践研究)

単元開始前

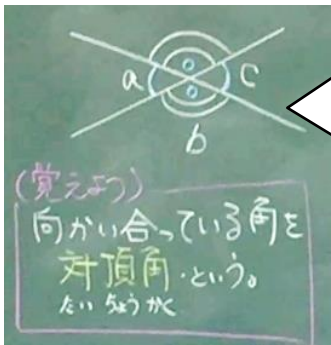
振り返りのねらい

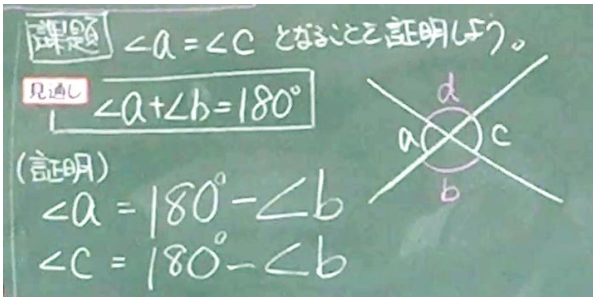
レディネステストを行い、1年で学習した「平面図形」を思い出し、理解度の確認をする。
また、これから学ぶ学習に向けての目標を考えることで、見通しを持って学習に取り組める。

2年 第4章～「平行と合同」～	
2年 組 番 氏名	
単元開始前	単元終了後
中1「平面図形」の学習とレディネステストを振り返って	「平行と合同」の学習と単元テストを振り返って

授業実践 【第4時】

ねらい: 対頂角の意味を理解し、対頂角は等しいことを、論理的に筋道を立てて説明することができる。

過程	学習の流れと生徒の活動	キャリア教育の視点
導入	1. 電子黒板にシーソーのイラストを表示  2. めあての確認 <u>めあて</u> 対頂角の大きさには、どんな決まりがあるか？ 予想: 対頂角の大きさは等しい(同じ) 導入時にシーソーのイラストを見せたことで、生徒たちはイメージがしやすくなった。 3. 数学用語「対頂角」の確認  (覚えよう) 向かい合っている角を対頂角という。 たいとうかく 問題把握や見通しを持たせるためには、数学用語「対頂角」の確認と、またそのイメージを持たせるための手立て「シーソー」(図)が重要である。	<u>みとおす力</u> 教科書の問題をただ提示するよりも、「今日はどんな問題を解くの？」と課題と提示の工夫でワクワクドキドキさせることで見通しを持って考えたい。 <u>問題提示の工夫</u> シーソーという身近なものから「対頂角が等しいだろう」という予想を立て、さらにそれを数学の世界(文字)で表すことで課題を考えることができる。

展開	4. 見通し  5. 自力解決 6. グループ活動 互いの考えを共有し合い、友達の考えをもとに自分の考えを修正する  7. 発表 	<u>みとおす力</u> 説明のために、$\angle a + \angle b = 180^\circ$ を活用するという見通しを持つことで、考えることができる。 <u>かかわる力</u> 6. グループ活動 自分の考えをノートを使って説明することができる。また、友達の考えをメモすることもできる。 <u>かかわる力</u> 7. 発表 書いたものをただ読み上げるのではなく、自分の説明が相手に伝わるように必要な部分の図を示すため<u>不必要な部分を手で隠しながら説明している。</u> <u>やりぬく力</u> 「グループ活動」や「発表」から、友達の考えをもとに自分の考えを修正しながら、説明(証明)を考える。
----	--	--

単元終了後

単元開始前	単元終了後
中1「平面図形」の学習と レディネステストを振り返って 小学生の時のものは解けたけど、中1のころに習ったものの中ではずいぶん解けなかったものもあった。角や平行、長さと同じことを表す記号が思い出せなくて悔しい。	「平行と合同」の学習と 単元テストを振り返って 角や平行、長さを表す記号をもう一度思い出すことができた。つらいながら解いた問題も、今ではスラッパ解けるようになった。錯角や同位角の性質なども学べたため求められる角の大きさがグッと増えた。

振り返りの分析

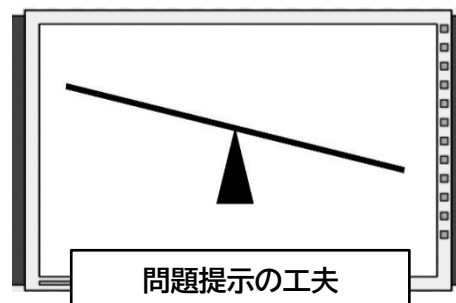
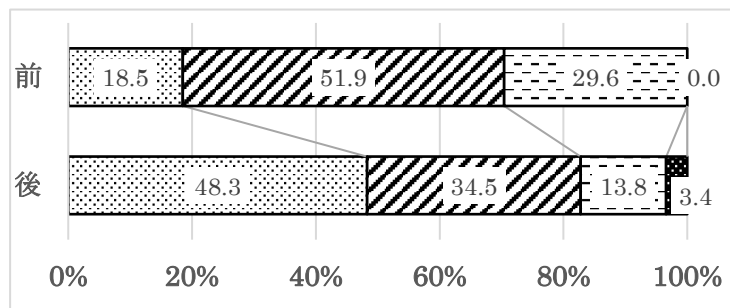
単元前のレディネステストで、解けなかった問題に対しての悔しさから今単元に向けて頑張っている姿が見える。また、現段階の自分の理解度が確認できたことで、学習への計画、見通しを持つことができた。

Check (生徒アンケートと振り返り)

1. 実践前後の生徒アンケートより(調査時期と生徒数:11月89人・12月96人)

□当てはまる □どちらかといえば当てはまる □どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない

- (1) わからないことやもっと知りたいことがあるとき、自分から進んで資料や情報を収集したり、誰かに質問したりしている

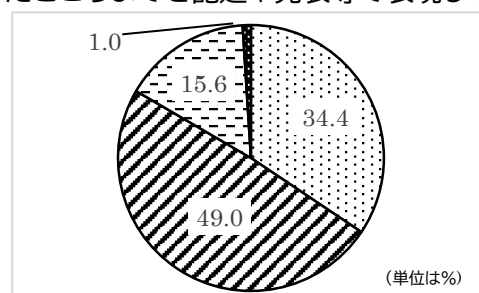
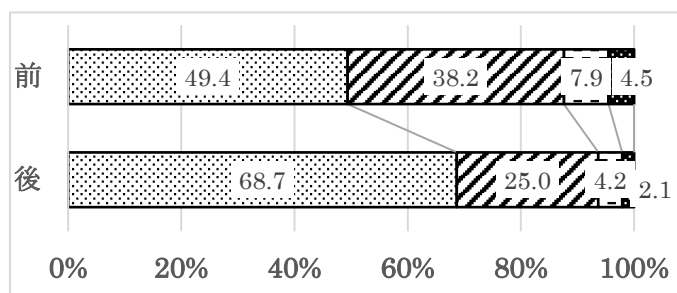


【みとおす力】

(1)において「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」という肯定的な回答をした生徒の割合は12.4ポイントのわずかな増加であるが、「当てはまる」と回答した生徒は事前より29.8ポイントも増加している。これは、見通しを持たせるための教師による「問題提示の工夫」によって、生徒の問題把握と解法への意欲を持たせることができたと考えられる。

- (2) 相手が伝えたいことを理解しようとしている

- (3) 友達との学び合いから自分の考えを深め、できたところまでを記述や発表等で表現している



【やりぬく力】

(2)において「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」という肯定的な回答をした生徒の割合が93.7%であり、「当てはまる」と回答した生徒も事前より19.3ポイント増加している。これは、見通しを持たせたこと、友達との学び合いで解法への考え方を修正しながら考えたことによって、最後まで問題に取り組めたと考えられる。

2. 「日々の授業での振り返り」より

1	11/11	95	図形があったら求められるけど頭の中ではできなかった。 <u>図形がなくても求められる方法が知りたい。(十角形の)</u>
2	11/12	98	<u>図形がなくても式で求められると分かった。</u> <u>もとにする図形が他の図形の場合も同じ式になる?</u>

↑Aさん

↓Bさん

7	12/12	100	友達の意見や参考になったことをほめてあげる時に図形をつくること。 私は、外角をうまく使えなかったのでもう参考になった。
---	-------	-----	--

振り返りの分析

〈Aさん〉
「図形がなくても求められる方法が知りたい」という他の解法を考えようとしている様子や次の授業では前時の疑問は解消されたが、さらなる疑問を持っている姿が見られる。

〈Bさん〉
友達との学び合いより参考になったことを具体的に表現している。ただ、互いの考えを紹介しているだけでなく、自分と違う考えを参考にしている姿が見られる。

【特別活動での振り返り】学活(3)ア

<振り返りのねらい>

本単元での学びについて振り返ることで、どのような変容があったかを確認して、次の学習につなげる。

<特活の流れ>

単元終了後、単元前に立てた目標、授業中での学び合い等に対する振り返りを行う。特活の時間は、教師が質問事項を1つ1つ丁寧に説明しながら、生徒に振り返りをする。

めあて 4章「平行と合同」の振り返りをしよう。

課題

- ① 「単元終了後」を書く
- ② 学習を終えて
- ③ お互いの振り返りを共有

1. この単元の学習を通して

(1) 友達との学び合いを通して、分かったこと、できるようになったこと

1 学年	2 学年
自分の考えと相手の考えを <u>比べる</u> ようになった。	自分では思いつかなかった発想があったり、 <u>友達に分からないところを教えることで自分自身も一緒に覚えることができた</u> 。
友達に教えてもらったことを少しだけ <u>友達に説明</u> できるようになった。	自分では思いつかなかった考えを知れたり、 <u>同じ解き方や同じ答えだったとき、安心したりした</u> 。
よりよい解き方を教え合ったことで <u>自分にあった式や説明を身に付けることができた</u> 。	わからない問題を <u>友達に気軽に聞けて、わかりやすく良かった</u> 。
自分の考えていた式や説明だけでなく、いろいろな人の解き方や説明の仕方が分かり、 <u>考えを広げることができた</u> 。	

(2) 振り返りを書いて、良かったことや気付いたこと

1 学年	2 学年
毎時間の授業を通して、分かったことや驚いたこと、もっと知りたいことなど、 <u>その日の自分の考えが分かる振り返りだったので書くことの大事さを知ることができた</u> 。	授業で <u>学んだことを整理</u> できてよかった。書いていたら自然とフラッシュバックしてくるので、 <u>新しい疑問も出てきて面白かった</u> 。
その日、自分が「できるようになったこと」「これをやった」など、振り返ることで <u>自分の成長をみる</u> ことができた。	自分が授業前にどんなことを思っていたのか、1つ1つの目標を達成できた時に <u>どんなことを思っていたのか</u> を知ることができた。

2. これからの学習において

(1) 数学の授業で頑張りたいこと

1 学年	2 学年
<u>式が何を表しているのか</u> などを考えながら問題を解くようにする。 (やりぬく力)	<u>質の高いグループ学習</u> をしたい。発表も頑張りたい。 (かかわる力)
説明問題が苦手なので、式だけを見て問題を考えたり、式をもとにグラフや公式を書いたり、問題解決に <u>見通し</u> を持てるようになりたい。 (みとおす力)	<u>人に教えるのが一番頭に入ってくる</u> と聞いたので、グループ学習や発表をもっと積極的にやりたい。 (かかわる力)

(2) 他の教科で頑張りたいこと

1 学年	2 学年
実験の結果を説明できるようになりたい。 (やりぬく力)	「平行と合同」は技術や美術の設計でよく使うと思う。この単元の学習を活かしてスマートな設計ができるよう頑張りたい。(やりぬく力)
相手の話を頭に入れて、自分の意見をしっかり伝える。 (かかわる力)	理科で湿度を求める計算をしているから、百分率の計算を頑張りたい。(やりぬく力)

(3) 学校生活で頑張りたいこと

1 学年	2 学年
やらないといけないことは、必ず先にやる。 (みとおす力)	友達との教え合いや協力して答えに向かって解くように、学校生活でも友達と協力して1つに取り組むことを頑張りたい。(かかわる力)
まだやったことのないことに積極的にチャレンジしていきたい。 (やりぬく力)	数学で答えを求めるのに何通りも方法があることを生かして、普段の生活で何か問題に当たったら、いろんな方向から解決策が見いだせるようにしたい。(やりぬく力)

Action (成果と課題等) ※研究協力員の振り返りをもとに(○教師、◎生徒)

■成果と課題

<成果>

- 生徒に「少しずつ」見通しを持たせる工夫を行うことで、生徒が取り組む課題が明確になり、学習内容の定着につながった。
- 授業づくりにおいて、自分の考えを発表したり、相手の考えを説明したり、他人の考えをノートにまとめたりする活動を通して、多様な考え方があることを理解させることができた。
- ◎友達との学び合いを通して、考えを比較したり、新しい考えに気付いたりすることができた。また振り返りを通して、自分の学びの成長や学習に対しての取組に気付くことができた。

<課題>

- 校内研修等で、全職員体制でキャリアの視点を取り入れた授業実践の確認が必要。
- 知識及び技能が中心の授業では、教師の説明が長くなり、生徒の思考の時間が十分ではなかった。

<気付き、感想>

- キャリア教育の4つの力を意識したことで、より広い視点で単元計画を作成することができ、全教科に通じる「身に付けさせたい力」(学習規律・学び合い等も含む)の育成につなげることができた。
- 「みとおす力」を意識させた授業を行うことで、課題に向かう姿勢や課題解決のために具体的にどうすればよいかなど、生徒が積極的に授業に参加する姿が見られるようになった。



教科の中に潜んでいる

キャリア教育の

タネ

- 子供たちの身近なところにある興味・関心を持つ課題を与えることで、子供たちは進んで解法等の見通しを考え、課題解決に向け真剣に取り組む、友達に教えたり聞いたりする。

(かかわる力・みとおす力)

- 授業の振り返りや単元前後の振り返りを通して、これまでの自分の考えを見直すことで、最後まで課題に取り組むことができる。

(ふり返る力・やりぬく力)

授業実践3

沖縄市立コザ中学校

主体的に学習に向かう態度を育む授業づくりの工夫 ～教科等横断的な学習活動を通して～

◆実施学校名	沖縄市立コザ中学校	◆学年組	1年1組 36名
◆教科名	特別活動	◆時間数	音楽 全6時 特別活動 全3時 学年行事 全1時
◆題材	「互いのよさを生かし、なりたい自分、なりたい学級を目指そう」		

◆単元目標

- (1)学級のために自分ができること、何ができるかを合意形成・意思決定したことを実践できる。
 (2)課題解決に向けて見通しを持って、計画的に集団で協働して取り組むことができる。
 (3)振り返りを通して、自己のよさを見つけ、主体的に学習に向かう態度を養う。



キャリア教育の視点

かかわる力	ふり返る力	やりぬく力	みとおす力
・話合いの場において進んで考えや気持ちを伝え合い、他者の意見を受け入れながら、集団の中で協力して取り組む。	・行動を振り返り、集団や自己の目標に向けて改善点を話し合い、自分のよさを生かし主体的に工夫して取り組む。	・自分ができること、すべきことを途中で諦めず、最後までやり抜く。	・「なりたい学級」「なりたい自分」を設定し、互いの役割を認識して、目標に向けて取り組む。

カリマネ3つの側面

(○)教科等横断的な視点 (○)PDCA サイクル (○)人的・物的資源の活用

Plan (指導計画)

1	学級の実態把握(事前)アンケート実施
2	音楽科の学び ⇔ 学級活動(3):目標の決定、意思決定
3	三線合奏練習 ⇔ 学級活動(3):中間評価:成果と課題
4	音楽発表会 ⇔ 学級活動(3):振り返り(自己の成長・よさを伸ばす) 学級の実態把握(事後)アンケート実施

単元のゴール(学ぶ意義)

- ・音楽科「三線に親しみ地域の伝統や文化を理解し受け継ぐ態度」を育むことを通して、「より良い集団づくり」を目指す。
- ・「音楽発表会」に向けて、課題に向き合い、特別活動や音楽の振り返りを通して、主体的に実践する態度を育む。

教師の意図

- ・音楽(三線合奏)を通して地域文化に触れ、受け継ぐ態度を身に付けてほしい。
- ・他者との関わりの中で、自分の役割をやり抜くことができ、集団や自己のよさを発揮し、達成感や自信を持ってほしい。

教師の手立て

- ・目標の設定と教科等横断的な学習活動を意識づける。
- ・地域人材を活用する。
- ・PDCA サイクルを意識し、キャリア教育の視点で振り返りを行い、課題解決に向けた話し合い活動の工夫を行う。

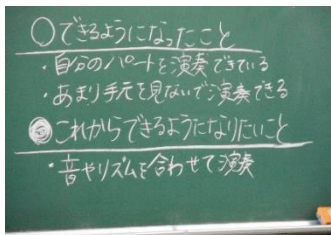
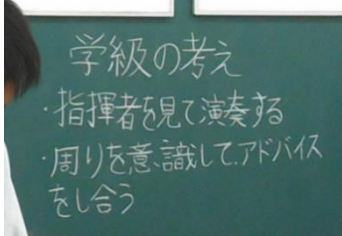
目指す生徒像

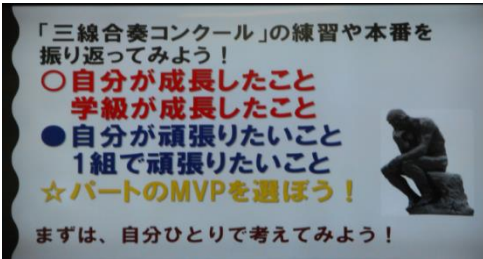
- ・課題解決に向けて見通しを持って、計画的に協働して取り組む姿。
- ・目標を設定し、集団の中で自分ができることを見つけ実践する姿。
- ・振り返りから自己のよさを見つけ次へつなげる姿。

Do (実践研究)

■指導と評価の計画

	○議題及び題材 ・学習活動 ☆ねらい	キャリア教育の視点
音楽科	(県立芸術大学教授 山内昌也先生) ○プロから三線の歴史や基本の奏法を学び、「ていんさぐの花」を演奏しよう。 ・ていんさぐの花の歌詞(島くとうば)の意味が分かる。 ・三線の歴史について知る。 ・三線の基本の構え方や弾き方が分かる。 ・開放弦と中指を覚える。	ふり返る力 講師からの情報、助言を正しく理解し自分を見つめる。 やりぬく力 ・間違いや他人との違いをおそれない。 ・最後まで粘り強くやり通す。
音楽科	(県立芸術大学教授 山内昌也先生) ○押さえる指を増やして「ていんさぐの花」を三線で演奏しよう。 ・前回の振り返り ・開放弦と中指 ・開放弦(合・四・工)、中指(中・六)、小指(尺・七)の勘所を覚える。	ふり返る力 講師からの情報、助言を正しく理解し自分を見つめる。
学級活動	○三線合奏コンクールに向けて「なりたい学級」の目標を決めよう。 ・学級目標を立てる意義や意味を理解する。 ・グループ交流の視点の確認をする。 ☆集団で目指すゴール(目標)は何かをイメージする。 ・今後の計画を立てる。 (各自のパート確認、日程確認)	かかわる力 他者と関わることで、対話を通して新しい見方や考え方に気付く。 みとおす力 学級の目標から自分がすべきことを見つけ、目標に向けて計画を立てる。
目標設定	○学級目標を達成するために、個人の目標(なりたい自分)を立てよう。 ☆学級の目標に沿って、自分が学級のためにできることを考え設定する。 ・グループで意見交換し、他者からのアドバイスをもらい、なりたい自分について思いを広げる。	ふり返る力 活動を振り返り、集団や自己の目標に向け、主体的に取り組もうと決意する。

	○議題及び題材・学習活動	キャリア教育の視点
学級活動 25日	○学級目標を達成するために、学級掲示物を作ろう。 ・他者と協力しながら学級目標の掲示物を作成する。 	
学級活動	○三線合奏コンクールに向けた中間振り返りをしよう。 ・これまでの取り組みを動画視聴で振り返る。 ・成果、課題について考える。   ・成果、課題についてグループで交流する。(ワークシート活用)   ・各グループから出された改善点を全体で話し合い、共有する。  	ふり返る力 ・音楽的な事だけでなく、態度や心構えについて考える。 ・成果と課題について考える。 ・集団や自己の目標に向け、主体的に取り組もうと決意する。
中間評価・振り返り 11月4日		かかわる力 他者と関わることで、対話を通して新しい見方や考え方に気付く。
帰りの会 5日	○合奏練習を充実させよう。 	やりぬく力 他者と協力して課題に対し、粘り強く取り組む。
帰りの会 10日	○合奏練習を充実させよう。 	やりぬく力 自分の課題に対し、粘り強く取り組む。

	○議題及び題材・学習活動	キャリア教育の視点
学年行事	○「三線合奏コンクール」本番 ・「互いのよさを生かし、めざす学級、めざす自分になろう」 	・改善点のキーワードを全体で共有し、互いに意識を高めながら演奏する。
11月16日		
学級活動	○三線合奏コンクールを振り返ろう。 ・これまでの音楽授業や音楽発表会を振り返るため、動画視聴する。   ・本時の活動の流れを確認する。	ふり返る力 ・これまでの学習を通して、見通しを持ち協働で取り組むことができたかについて考える(下図)。 
行事を終えての振り返り	・これまでの取り組みを振り返り、各自で成果、課題を見つける。 (ワークシート活用)  ・タブレットに入力する。  ・各グループで意見交換を行う。  ・グループ毎に発表する。  ・授業者が成果について称賛する。 	かかわる力 他者と関わることで、対話を通して新しい見方、考え方に気付く。 みとおす力 振り返りから、さらに質を高める集団や自己の目標に向け、「次はこうしよう」と主体的に学習に向かうことができる。
25日		

Check (生徒の振り返りシート・アンケートより)

○外部講師(沖縄県立芸術大学教授 山内昌也先生)の特別授業を受けての感想

最初に演奏していた、琉球古典音楽は、音がゆっくりで、おちついていて、中国の王様をおもてなしするときにも、ゆっくりおちついて聞けるという意味があり、琉球古典音楽は中国の王様のことを思っているか、山内さんの演奏と歌が上手で、びっくりしました。

今日の授業で山内昌也先生の演奏を聞いて、「三線のテンポが曲と違うな」「ゆったりと曲だな」と思い話を聞くと、『琉球古典音楽』だと分かった。私達は『さんざぬ花』をひいてその2つの違いについても考えることができた、いい機会になった。

○実践後の振り返りにおいて、各グループで話し合った成果と課題

学級が成長したこと(成果)
みんなで注意やアドバイス仕合い、一致団結出来るようになったこと
1組で頑張りたいこと(課題)
言われなくても周りを見て行動し、困っている人をみんなで助け合えるようにしたい!!
唄・ピアノのパートのMVP!!
Y.Aさん

成果 MVP Nさん
練習や本番で一致団結しながらパートも分けていき、できているところは強く、弱くはならないように高める
課題 ミスを減らしながらパートも分けていき、団結力をこれ以上高める

1パートの考え 3人
成果 (一人一人が周りのことを考え行動できた!!)
課題 (目標をもっと達成する事と笑顔で演奏する事をもう少し頑張りたい!!)
MVPは...みんなです!!

生徒Aの変容

「なりたい自分」を考える

⑥ 仲間からの激励メッセージを受けて、改めて「なりたい自分」を考えよう。

みんなのことをしっかり考えられる人になる!!
理由: みんなのことを考えて協力しないと金賞とれないから!

⑦ 振り返り

視点①課題を解決するために試行錯誤したことを書きましょう
②参考になった友達や先生の発言や助言について書きましょう
みんなからメッセージをもつて自分もこれからコンクールに向けて一生懸命頑張ろうと思ったし、学級でも協力して金賞とりたい!!

3. 残された「三線合奏」の練習時間で、具体的に何を頑張るのかやることリストを書こう。

なりたい自分に近づくために
☐ 周りの音をしっかり聞く
☐
なりたい学級に近づくために
☐ 指揮者をしっかり見てみる
☐

2 自分や学級が成長したところとは? 【成果】

【自分が成長したこと】
みんなと気持ちをそろえようという意識が高まった
【学級として成長したこと】
クラスの目標通り、一致団結できる
最高のクラスで、もっと仲良くしたい!!

3 来年(中2)の自分へアドバイスを書いてみよう!

みんなと一生の思い出になるように楽しくやること、練習でも力をめがけ本番の気持ちでいざむくことが大切!!
2年生の合唱コンクールをいい思い出にするためには、どんな行動や気持ちの準備が必要かな?

生徒Cの変容

「なりたい自分」を考える

⑥ 仲間からの激励メッセージを受けて、改めて「なりたい自分」を考えよう。

みんなと協力してできる自分
理由: 一人だけではどうしてもできないことがあるから

⑦ 振り返り

視点①課題を解決するために試行錯誤したことを書きましょう
②参考になった友達や先生の発言や助言について書きましょう
みんなの意見を聞いて、意見と意見を決めることができてきたです

3. 残された「三線合奏」の練習時間で、具体的に何を頑張るのかやることリストを書こう。

なりたい自分に近づくために
☐ 自分のパートを覚える
☐
なりたい学級に近づくために
☐ みんなの「ミス」を合奏のために意識する
☐ 練習

2 自分や学級が成長したところとは? 【成果】

【自分が成長したこと】
今年とほとんど見ず、最後まで演奏することができた。
【学級として成長したこと】
最初はみんな、リズムがバラバラだったけど、本番では練習のときよりもリズムが揃っていた。

3 来年(中2)の自分へアドバイスを書いてみよう!

みんなと一致団結して、積極的に、自分の意見を言ったり、いろいろな意見を聞いてみる。
2年生の合唱コンクールをいい思い出にするためには、どんな行動や気持ちの準備が必要かな?

目標設定

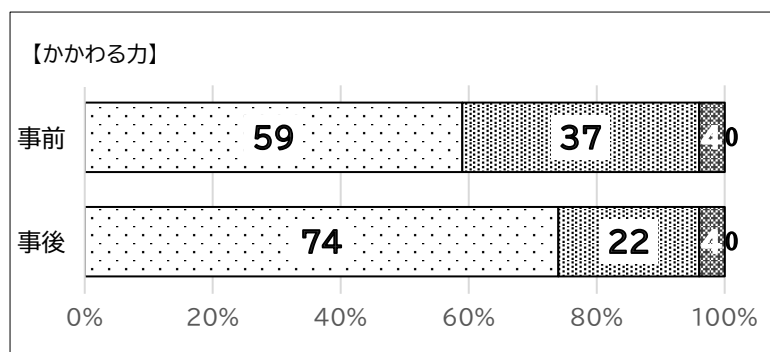
中間評価

実践後の振り返り

○アンケート結果より(生徒数 36 名)

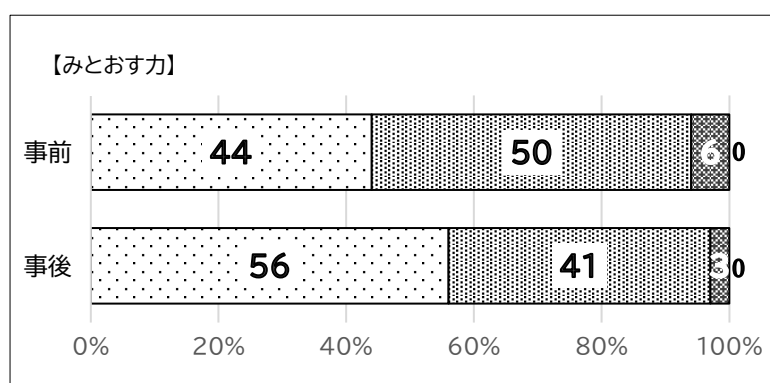
□ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる
 ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

(1) 相手が理解しやすいように、工夫しながら自分の考えや気持ちを伝えようとしている。



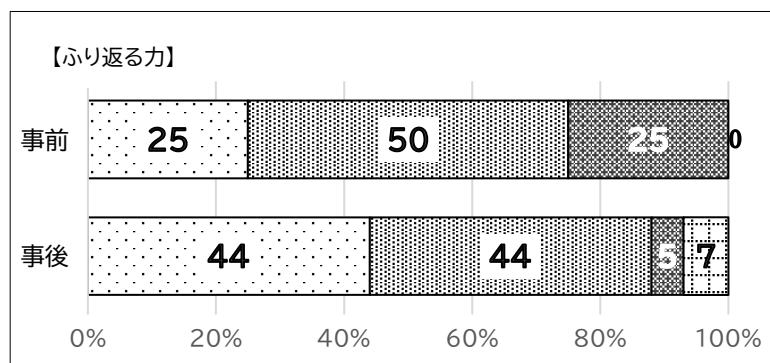
「当てはまる」と回答した生徒が、単元終了後は15ポイント増加した。これは、ワークシートの工夫や音楽の時間に各班のリーダーを中心に話し合いを進められるようにしたことで対話が引き出され、自分の考えや思いを整理することができ、わかりやすく伝えることにつながったと考える。

(2) 自分から役割や仕事を見つけたり分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動しようとしている。



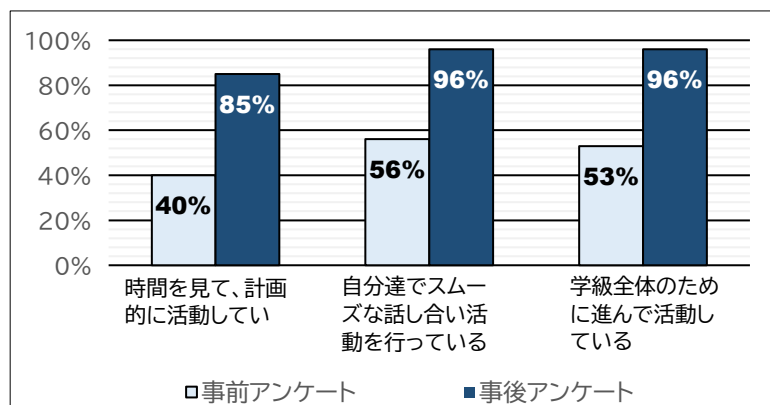
「当てはまる」と回答した生徒が、単元終了後は12ポイント増加した。これは、音楽の授業や学級活動において中間評価や振り返りを行い、課題解決に向けた話し合い活動を設定したことで、自分から学級のためにできることを見つけ出し、周囲と協力して目標に向かって取り組む姿につながったと捉える。

(3) 授業のあと、できたことやできなかったこと等を振り返って次に生かそうとしている。



「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した生徒が、単元終了後は13ポイント増加した。これは、学級で立てた目標に対して、音楽の授業や学級活動の時間でも定期的に振り返りを行ったことが要因だと考える。その結果、生徒自身で PDCA サイクル回せるようになったと捉える。しかし、「当てはまらない」と回答してる生徒が7%おり課題が残った。

(4) より良い学級づくりに関するアンケート



今回の実践を通して、学級で決めた目標を意識して取り組む生徒の姿が見られ、カレンダーを見てスケジュール管理をする生徒が増えてきた。また、生徒同士の仲も深まったと感じる。「よりよい学級づくりに関するアンケート」(左図)においても、肯定的な回答が単元終了後には40ポイント以上増加しており、生徒の意識の変容がうかがえる。

教室内の壁には、生徒や保護者に「学び・育ちの実感」を感じさせる掲示物の工夫がされていました。



各種行事
取り組みの様子



学習活動
の様子

Action (成果と課題)

【成果】

- ・ 教科等横断的な学習や地域人材の活用により、生徒が単元題材に対し興味・関心が高まり、主体的に学習に向かう姿が見られた。
- ・ 事前活動で、話合いの進め方やまとめ方等について確認したことで、話合い活動を円滑に行うことができた。また、その活動を通し、リーダー育成につながった。
- ・ 話合う活動により、一人一人の考えを深めたり、広げたりすることができた。また、級友たちとの関わりを通して、自分に自信を持つことができた。
- ・ 「なりたい学級」「なりたい自分」について自分ごととして捉え、目標を設定させることで、全体や個々のやるべき課題(取組)が明確になり、見通しを持って活動に取り組むことができた。
- ・ 個人個人がスケジュール管理しながら見通しを持って取り組む姿が見られるようになった。
- ・ 沖縄の楽器、三線や地域の文化に触れることで、興味・関心を広げ、学級の団結を図る音楽行事が開催できた。



学年行事「三線合奏コンクール」
1年1組 グランプリ受賞

【課題】

- ・ 学級で決めた目標を常に意識させるための言葉かけや振り返る視点を明確にする。
- ・ 自分の考えや意見等を周囲に伝えられるような工夫、個への支援が必要である。

キャリア
教育の

教科の中に潜んでいる タネ

- 地域行事への主体的な参加や、三線音楽を通して多様な人々と交流する力。
- 協働して取り組む中で互いの人間関係を築いていく力とやりぬく力。
- 立てた目標を確認し次へつなぐ力とすすむ力。

実践事例4

沖縄市立コザ中学校

主体的に英文を読む力を育む授業の工夫

～段階的に理解する発問の工夫とリーディング活動を通して～

◆実施学校名	沖縄市立コザ中学校	◆学 年	3 年 1 組
◆教 科 名	外国語	◆時間数	全9時間
◆題 材	Unit 5 Plastic Waste		

◆単元目標

日常的な話題(プラスチックごみ問題)に関して、聞いたり、読んだりしたことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いて伝え合うことができる。

<単元の評価規準>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①プラスチックごみや他の環境問題について英文やグラフから内容を読み取り、内容を理解している。 ②関係代名詞の構文を理解し、事実や自分の考えを表現する技能を身に付けている。	③プラスチックごみ問題に関心を持ち、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。	④プラスチックごみ問題に関心を持ち、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりしようとしている。



キャリア教育の視点

やりぬく力

・単元目標を理解し、パフォーマンステストに向かって自らの学習を調整できる。

みとおす力

・読解のステップを理解し、主体的に読もうとしている。

カリマネ3つの側面

()教科等横断的な視点

(○)PDCAサイクル

()人的・物的資源の活用

Plan (指導計画)

■単元の指導計画

1	単元前テスト(リーディング)・関係代名詞
2～7	本文の内容指導等 *すべての活動が最後までつながるように計画する。
8～9	パフォーマンステスト(インタビュー)・単元後テスト(リーディング)

教師の意図

環境問題に興味を持ち、主体的に英文を読み、自分の意見を表現させたい。

教師の手立て

・発問を工夫し、見通しを立てて読めるように指導する。
・段階的指導で、論理的な意見を言えるようにする。

目指す生徒像

初見の文章にも主体的に取り組む、目標をきちんと理解して、パフォーマンステストに向かう。

Do (実践研究)

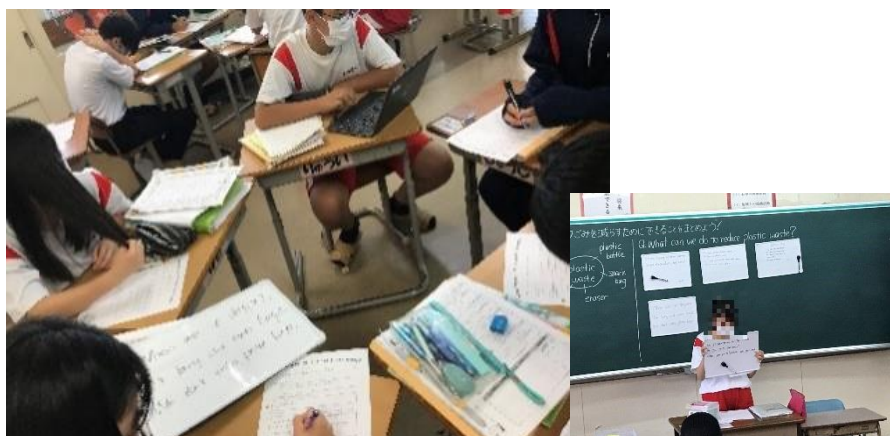
時間	☆本時の目標 ○学習内容 ・学習活動	キャリア教育の視点	評価の観点と評価方法 ○指導に生かす評価 ◎記録に残す評価
	・単元前リーディングテスト ・アンケート実施		
1	☆身の回りにあるプラスチック製品について考える。 ☆関係代名詞を使ってその製品を説明する。 ○Warm-up (2分)ペア活動 ・身近なプラスチック製品とは ○身近なプラスチック製品を関係代名詞を使って説明する。 【指導の留意点】 文法指導は drill → sentence building → free writing の流れにする。	みとおす力 自分で文章を作る過程とゴールを明確にする。	○知① ○思③ 行動観察 ○知② ワークシート
2	☆Kota のプレゼンテーションの内容を読んで理解する。 ☆グラフを読み取る。 ○Warm-up(2分)ペア活動 ・P66 の写真を見て、感じたことを互いに述べる。 ○Reading (Part 1 Paragraph 1) ・実際にゴミの量をイメージしてみて、感想を述べる。 【指導の留意点】 効果的なプレゼンテーションについても考える発問をする。	みとおす力 読む理由の明確化、既習事項や知識を元に予想する力を育む工夫。	○知① ○思③ 行動観察
3	☆Paragraph2と3の内容を理解する。 ☆自分にできることを考え、英文を書くことができる。 ○Warm-up(3分)前時の復習 ○Reading (Part 1 Paragraph2&3) ○自分にできることは何だろう。(writing) Ex: I don't throw away plastic bags. 【指導の留意点】 関係代名詞の学習は前時の内容も確認しながら進める。	やりぬく力 パフォーマンステストのイメージをつかむ。	○知①、② ワークシート ○思③ ワークシート 行動観察
4	☆動画から Bali について学び、姉妹の活動の理由を考える。 ☆Part2を主体的に読む。 ○Warm-up(3分)ペア活動 ・バリ島の映像・姉妹の T シャツに書いてある文字を見て動画の内容を想像し、動画を見て分かったことを共有する。 ○Reading (Part 2) 【指導の留意点】 ・動画を見る前にヒントや聞くポイントを指導する。	みとおす力 読む理由の明確化、既習事項や知識を元に予想する力を育む工夫。	○知① ワークシート ○思③ 行動観察 ワークシート
5	☆関係代名詞の構造を理解し、自分の考えを表現する。 ○Warm-up(10分)関係代名詞の文でクイズを作ろう。 ・ペアで問題を作り、封筒に入れて、他のペアと交換。 ○主部に関係代名詞が使われる文の学習 ・The uniform that we wear to school is ~ など Warm-up で作成した文章をアレンジして作る。	やりぬく力 文法事項の定着を主体的に学習させる工夫。	○知② ワークシート 行動観察

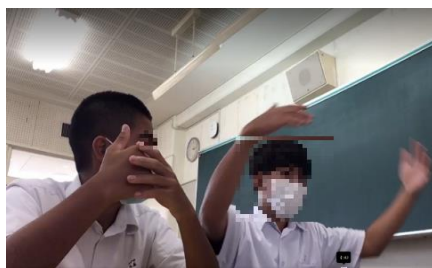
	【指導の留意点】 生徒の例文は多様なアレンジができそうなものを選ぶ。		
6	☆プラスチックごみを減らすためにみんなでできそうなことをまとめる。 ○Warm-up (5分) 前時の復習(プレゼンの内容を確認) ○グループ学習 ・Take your bag when you go shopping. Recycle plastic properly. の提案にアイデアを加えよう。 【指導の留意点】 書いてまとめる活動のあと、グループを半分入れ替えて、グループ内発表をする。	やりぬく力 パフォーマンステストの内容の一部。	○知①、② ワークシート ○思③ ○態④ 行動観察
7	☆Part3 の内容を読んで理解する。 ☆教科書と自分たちのアイデアと比べる。 ○Warm-up (5分) 前時の発表からいいアイデアを紹介する。 ○Listening/Reading(Part 3) ・動画を見て、4 人のアイデアを整理する。(表にまとめる)→自分たちのアイデアと比べて、表現する。 【指導の留意点】 Warm-up で part 3 の語彙の導入(視覚教材なども活用する。)	みとおす力 主体的に読む力とリスニング活動を組み合わせる。	○知①、② ワークシート ○思③ ○態④ 行動観察
8	☆パフォーマンステストのルーブリックを理解し、練習する。 ○Warm-up ・短い英文を読んで、内容を確認、自分の考えを述べる。 ○ペア活動 ・互いの意見に質問をする。 【指導の留意点】 ・ルーブリックの内容をしっかりと理解させる。 ・コミュニケーションモデルを提示し、ペアで協力するようにする。	みとおす力 パフォーマンステストでの質疑応答の練習を主体的に行う。	○知①、② ○思③ ○態④ 振り返りシート
9	☆パフォーマンステストに主体的に取り組む。 ○英文を読む→質疑応答(内容確認、自らの考え) 【指導の留意点】 インタビューテスト以外の生徒は関係代名詞の問題に取り組む。	やりぬく力	◎知①、② ◎思③ ◎態④
	・単元後リーディングテスト ・アンケート実施		

Check (評価と分析)

第 6 時:

グループ活動と発表の様子。
 「レジ袋を捨てない」、「ゴミを持ち帰る」などのアイデアを英文にしている。





第9時:

パフォーマンステストの様子。
英文を読み、ペアで協力しながら、ジェスチャーなどを駆使して伝え合おうとしている。

【パフォーマンステストのルーブリック】「話すこと〔やりとり〕」

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	英文の内容を理解し、自分の考えを理由とともに明確に述べている。	質問を理解し、具体例などを含めてきちんと答えている。	英文の内容を理解し、自分の考えを述べ、相手に配慮しながら質問に答えようとしている。
B	英文の内容を理解し、自分の考えを述べている。	質問を理解し、答えている。	英文の内容を理解し、自分の考えを述べ、質問に答えようとしている。
C	B 以下である。	B 以下である。	B 以下である。

【パフォーマンステストの結果と分析】対象クラス 3 年 1 組(27 名)

実施方法:40 語程度の環境問題に関する英文(初見)を 3~4 種類用意する。生徒はペアでテストを受ける。

20 秒で英文を黙読し、その後内容についての質問や自分の考えを述べる。

各観点「B」以上の生徒 (C 評価を含まない者)*上記ルーブリック参照	22 名
評価規準を満たしたと判断できる割合	81.5%

単元の始めにパフォーマンステストの概要を明確にし、実施できたことで、未読の文章にも前向きに取り組むことができた。また、ペアでテストを受けることで心理的なハードルも下げることができたと考える。

【単元前後リーディングテストの結果と分析】

初見の環境問題に関する英文を出題し、問題の難易度を上げ、正答率の変化を考察する。英文の難易度が異なるため単純比較は難しいが、平均スコアは単元前後とも 4 問中 2.2 点、第 4 問の「全体的な理解(要点)を問う問題」の正答率が上がったことは、最後まで読むことができた生徒が多いのではないかと考える。

			正答率(%)	
難易度			単元前(103words)	単元後(134words)
易	第 1 問	何について書かれているか(topic)を問う問題	64.0	47.6
中	第 2 問	キーワードや数を問う問題	76.0	81.0
難	第 3 問	深い理解が求められる問題	44.0	38.1
難	第 4 問	全体的な理解(要点)を問う問題	36.0	52.4

Action (成果と課題)

成果:ペアやグループ学習などで段階的に指導し、パフォーマンステストを意識させることができた。

課題:生徒自身もルーブリックで自己評価することで学習をふり返り、次に生かそうとするように工夫する。



キャリア教育の

教科の中に潜んでいる **タネ**

見通しを持つことで、苦手なことにも挑戦できる。

実践事例5

沖縄県立那覇西高等学校

健康課題を主体的に捉え、思考・判断することのできる生徒の育成 ～医薬品(ワクチン)の授業を通して～			
◆実施学校名	沖縄県立那覇西高等学校	◆学 年	第 2 学年
◆教 科 名	保健体育(保健)	◆時間数	全 2 時
◆題 材	「ワクチン接種について考えよう」		
◆単元目標			
(1) 疾病からの回復や悪化の防止及び予防には、医薬品の制度や特性を理解し、正しく使う必要があることについて理解することができるようにする。【知識及び技能】			
(2) 医薬品と健康に関わる情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上などと、解決方法を関連付けて考え、適切な選択や活用について思考し、判断するとともにそれらを表現することができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】			
(3) 医薬品と健康の学習において、自他や社会の健康の保持増進や回復についての学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】			

キャリア教育の視点

ふり返る力	みとおす力
・情報を正しく理解し、自分の生活につなげて考えることができる。 ・学んだことを責任をもって他者へ伝えることができる。	・自ら主体的に判断して、自分の行動を考えることができる。 ・学びを今後の健康課題に当てはめて考えることができる。

カリマネ3つの側面

()教科等横断的な視点

(○)PDCAサイクル

()人的・物的資源の活用

Plan (指導計画)

1	医薬品の制度とその活用① ・医薬品の制度及び特性と正しい使用法を学ぼう
2	医薬品の制度とその活用② ・ワクチン接種について考えよう

単元を学ぶ意義

医薬品の制度や特性を理解した上で、使用法や活用について思考・判断することで、主体的に自らの健康を保持増進しようとする力を養う。

教師の意図

- ・医薬品の制度や特性について理解し、正しい使用法や活用について考えてほしい。
- ・医薬品の使用やワクチン接種を自分ごととして捉え、しっかり思考し、判断してほしい。

教師の手立て

- ・コロナワクチンシートの作成過程において、自分の考えや情報の整理を行うことで、情報を正しく理解させ、自分ごととして捉えさせる。
- ・情報を理解し、伝達する役割を与え、学びを深める。

目指す生徒像

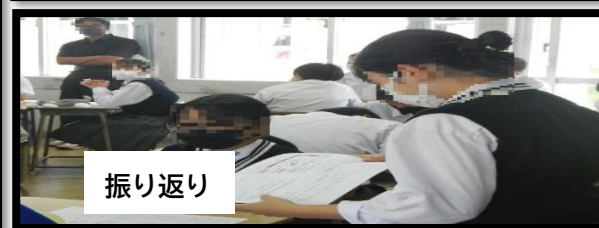
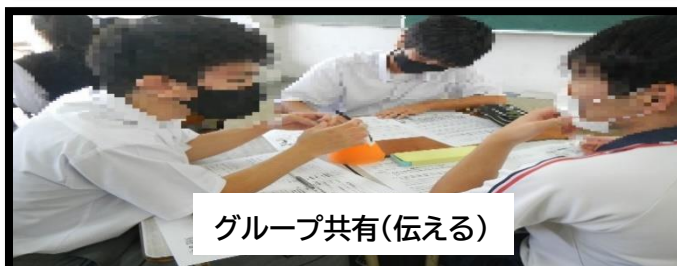
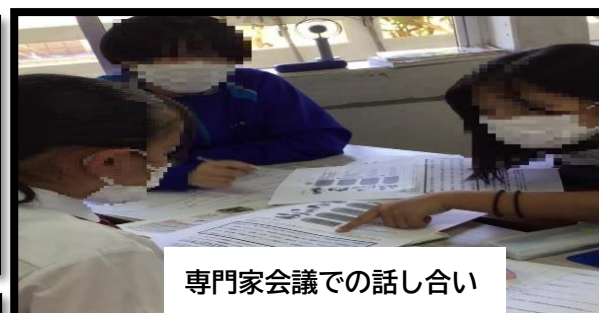
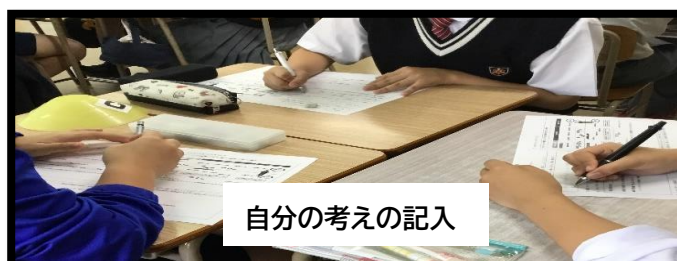
- ・情報を正しく理解し、知識を基に思考・判断しながら、自らの健康について考える姿。
- ・自分の役割を理解し、責任を持って他者へ伝える姿。

Do (実践研究) 第2時/全2時

本時の目標:①コロナワクチン接種を自分ごととして捉え、情報をもとにワクチン接種について考える。
②グループ活動において、自分の役割を理解し、責任を持って行動する。

過程	学習の流れと生徒の活動 ※吹き出しは指導上の留意点	キャリア教育の視点								
導入 つかむ	1. 前時の振り返りと本時の導入 2. 本時の確認(ワクチン接種は任意です) 3. 本時の目標の確認 4. コロナワクチン接種に対する自分の考えをワクチンシートへ記入 コロナワクチン接種についての確認事項 コロナワクチン接種は任意である。保護者や信頼できる人と話しあい自分で考えて判断することが大切。 	みとおす力 本時の考え方と目標を理解し、目標達成への見通しを立てる。								
展開 学ぶ 伝える	5. ワクチン接種状況とワクチンに対するイメージやうわさが不安を生む新聞記事を読む 学びの必要性を感じさせる 6. グループ活動:「コロナワクチンについて学ぶ」 ①流れの確認 ②専門家会議(知識をもとに、各専門家会議ごとの問いについて話し合う) <table><tr><th>専門家会議</th><th>専門家会議ごとの問い</th></tr><tr><td>A ワクチンの有効性。</td><td>有効性のデータや結果を引き続き見ていく必要があるのはなぜか。</td></tr><tr><td>B ワクチンの副反応。</td><td>副反応があるのに、なぜ接種を行う(受ける)のか。</td></tr><tr><td>C ワクチンができるまで。</td><td>コロナワクチンが通常よりも早く開発できた理由は。</td></tr></table> 前時に話し合いがうまくいかなかったため話し合いから答えを導く「問い」を設定 前時に生徒から出た疑問を「問い」のひとつとして設定することで主体的に取り組めるようにする ③グループでの共有(伝える)及び聞いたことをまとめる(ワクチンシートの記入)	専門家会議	専門家会議ごとの問い	A ワクチンの有効性。	有効性のデータや結果を引き続き見ていく必要があるのはなぜか。	B ワクチンの副反応。	副反応があるのに、なぜ接種を行う(受ける)のか。	C ワクチンができるまで。	コロナワクチンが通常よりも早く開発できた理由は。	かかわる力 他者と関わり、進んで考えや気持ちを伝え合う。  ふり返る力 自分の役割を理解し、責任を持って行動する。 
専門家会議	専門家会議ごとの問い									
A ワクチンの有効性。	有効性のデータや結果を引き続き見ていく必要があるのはなぜか。									
B ワクチンの副反応。	副反応があるのに、なぜ接種を行う(受ける)のか。									
C ワクチンができるまで。	コロナワクチンが通常よりも早く開発できた理由は。									
まとめ つなげる	7. 本時の目標の振り返り 8. 本時の学びを今後につなげる 9. 学びを振り返り、ワクチンシートに記入 ①授業を通して考えたことや授業前後での考え方の変化 ②学習したことを今後にどう生かしていくか、新たな疑問点 10. 上記②についての発表 学びを自分の生活につなげて考えよう 例えば・・・ ⇒作成したコロナワクチンシートをもとにワクチン接種について保護者や信頼できる人と話し合ってみよう。 ⇒インフルエンザワクチン接種や子宮頸がんワクチン接種についても調べて、考えてみよう。 子宮頸がんワクチン勧奨接種再開の記事 今日の学習を今後の生活にどう生かせるのかを考えさせる	ふり返る力 情報を理解し、自分の生活につなげて考える。 みとおす力 ・自ら主体的に判断して、自分の行動を考える。 ・学びを今後の健康の保持増進につなげて考える。 								

Check (ワークシート・アンケート結果・振り返りより)



■コロナワクチンシートの記載より

1.授業前後の接種に対する考え方

Aさんの授業前の考え

まだ少しあやしい。

副作用が出てると聞くと、万が一重症とかになると思うと受けようと思わない。

ふり返る力・みとおす力

Aさんの授業後の考え

授業前後で考え方の変容が見られた

今日の授業を通して、前は副作用などが怖くて打てないところがあったけど、授業を聞いてワクチンを接種することで重症化を防ぐことができるなら受けたほうが良いのかなと思った。

2.授業を通して考えたこと

みとおす力

学びを今後とつなげて考えている

コロナワクチンについて学んで、これから自分が接種するかどうか、メリットとデメリットのどちらも考えながら、正しい選択をすることができると思う。

3.新たな疑問点

みとおす力

学びから新たな疑問が生まれた

子宮けいがんワクチン(子宮がん) 胃、がんのワクチンや肺がんのワクチンがないのはなぜ? なぜ子宮けいがんだけ推奨されるのか。

■生徒のアンケートの結果より

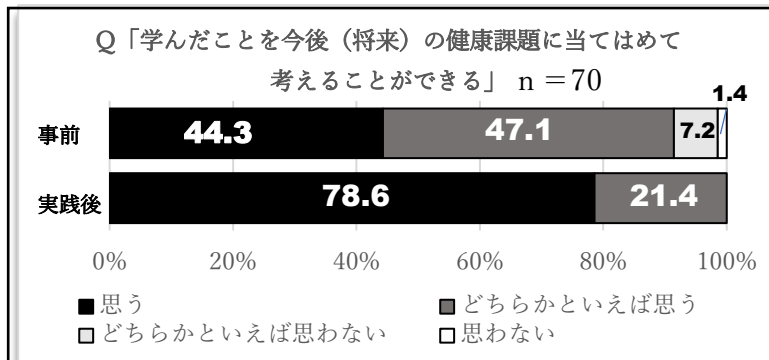
1. ふり返る力について

事前アンケート、「情報を正しく理解し、自分の生活につなげて考えることができる」に肯定的に回答したのは94.3%であったが、実践後は100%に向上した。中でも、「思う」とより肯定的に回答した生徒の割合が事前では42.9%に対し、実践後は80%となった。身近でタイムリーな題材の設定により、生徒が自分ごととして課題を捉えて考えたことが推測できる。また「学んだことを責任を持って他者へ伝えることができる」に肯定的に回答したのは事前では88.6%であったが、実践後は98.6%に向上した。専門家会議で情報を得る役割を与え、学んだことをグループで伝えるという場の設定をしたことが、学んだことを責任を持って伝えようとする行動につながったと推測できる。このことから、本実践は「ふり返る力」の育成に一定の効果があ

ったと考える。

2. みとおす力について

事前アンケートでは、「学んだことを今後の健康課題に当てはめて考えることができる」に肯定的に回答したのは91.4%であったが、本実践後は100%に向上した。中でも、「思う」とより肯定的に回答した生徒の割合が事前では44.3%に対し、実践後は78.6%となった。また「物ごとを自分で判断し、行動することができる」に肯定的に回答したのは事前では91.4%であったが、実践後は98.6%に向上した。



「授業で学んだことを今後の健康課題に当てはめて考えることができた」や「授業で学習したことが将来社会に出たときに役に立つ」と思う理由や具体例の記述

- ・ワクチンについて学んだことで、これからワクチンするかしないかを自分自身で判断できるから。
- ・自分は将来薬剤師の仕事をしようと思っているので、そこで必要な知識を今回の授業で少しでも理解できたと思ったからです。
- ・消防士を目指しているから。
- ・今後の人生でよく調べて自ら判断することがあると思うから。
- ・今まで調べたことがないことを友達と調べて、グループの人に伝わるよう言葉をまとめることや、調べてみてわかったことがたくさんあったから。

自分の将来と照らし合わせて考えている

本実践では、生徒に身に付けさせたい力を明確にし、振り返りやワークシートの工夫改善を行った。生徒のアンケート結果や記述から、「みとおす力」についても、一定の効果があつたと考える。

■研究協力員の振り返りより(下線は引用者)

コロナ禍でのコミュニケーションの制限から、特定の人としか関わりを持たない傾向があったが、今回の授業では話し合った内容を自分のグループへ持ち帰り正しく伝える活動を設定したため、生徒各々が責任をもって取り組む姿が見られた。また、情報を他者へ伝えることや、相手が伝えたいことを理解しようとする互いの姿勢が見られた。今後もキャリアの視点を意識した、活動の場の設定や学びの過程と思考を可視化できるようなワークシートの工夫改善を図っていきたい。また、授業を通して生まれた新たな疑問を大切にし、それについて調べたり、互いに情報を共有して理解を深める授業づくりに取り組んでいきたい。

教師の気付き

Action (成果と課題)

■成果: キャリア教育の視点を意識した授業づくりをしていくことで、身に付けさせたい力を効果的に育成することができた。また、PDCAサイクルを行うことによる教師の気付きも見られた。

■課題: 身に付けさせたい力をどの場面で育成し(場の設定と実生活に則した題材選択)、どのように活用するかを考えさせる(振り返り)を今後も工夫していく。



授業検討会

キャリア教育の

教科の中に潜んでいる タネ

- 学んだ知識や技能を今後の生活にどう活用できるかを考えることが、自分の将来の姿を考えることにつながっていく。

実践事例6

沖縄県立北中城高等学校

自分の思いや意図を音や言葉で表現することができる生徒の育成

◆実施学校名	沖縄県立北中城高等学校	◆学 年	第3学年
◆教 科 名	芸術(音楽)	◆時間数	全8時
◆題 材	リズムや音の重なり方の違いによる印象の違いを捉え、曲のアレンジに挑戦しよう		

◆題材の目標

- (1) 音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響きの特徴について、表したいイメージと関わらせて理解するとともに、創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、編曲をする技能を身に付ける。
- (2) 音色、リズム、テクスチャを知覚し、その働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて表現意図を持ち、それにふさわしい創作表現を創意工夫する。
- (3) 音の重なり方の違いによる印象の違いに関心を持ち、主体的・協働的に創作活動に取り組むとともに、音楽文化に親しみ、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。



キャリア教育の視点

かかわる力	ふり返る力	やりぬく力	みとおす力
進んで考え、気持ちを伝え合う力や協力する力	行動を振り返り改善につなげる力	課題に対応した計画を立案する力や最後まで粘り強くやり通す力	目標設定のために計画を立てる力や立てた目標を確認し次につなげる力

カリマネ3つの側面

()教科等横断的な視点

(○)PDCAサイクル

()人的・物的資源の活用

Plan (指導計画)

■題材の指導計画

1	リズムと和音について
2	GarageBand の準備
③	校歌の編曲にチャレンジしよう
4	発表

題材を学ぶ意義

自分の高校生活を振り返り、そのイメージを音で表現する。この活動を通して、学校生活を振り返り自己を見つめることにもつながると考える。また、自分の思いや意図を表現し伝えようとする資質・能力を育成できると考える。

教師の意図

- ・ICTを活用することで、難しいというイメージにとらわれず、主体的に創作活動に取り組める。
- ・自分の思いや意図を表現し伝えようとする力を育む。

教師の手立て

- ・ワークシート(作業手順、音素材の選択方法など)
- ・作品例の作成

目指す生徒像

- ・これまでの学校生活のイメージを音楽で表現し、自分の思いや意図を言葉と音で伝えたり、他者の作品から思いを感じ取ることができる生徒。

Do (実践研究)

過程	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	キャリア教育の視点
第1時	◆ハーモニーの変化による響きの違いや雰囲気の違いを捉える。 ○自分の思いを歌詞で表現する。 ・校歌の4番として作詞する。高校生活を振り返り自分の思い出を歌詞(言葉)で表現する。 ・出来上がった歌詞を発表し合い、仲間と思い出を共有する。 ○スリーコードの響きを味わう。 ・G-durでのコード進行(トニック[G] → サブドミナント[C] → ドミナント:[D],[D7])をギターで弾いてみる。 ・スリーコードの響きを感じながら、自作歌詞の校歌を弾き歌いしてコード進行を確認しハーモニーの響きを味わう。	<u>ふり返る力</u> 今までの学校生活を振り返る。 <u>かかわる力</u> 意見交換
第2時	◆曲想の変化が音楽を形づくっている要素の働きによって生み出されていることを捉える。 ○ipadを使い色々な楽器の疑似演奏にチャレンジする。 ・様々な音色を楽しむ。 ○インターネットやYouTubeなどで、それぞれの曲調や雰囲気を調べてGrageBandで、その雰囲気に近い音を探す。 ・□□風な雰囲気 of 音楽を感じよう。 ※和風では、箏の音色、中国風では、ドラや二胡など自由に楽器の音色を聴きながらふさわしい音色を探す。 ○互いの作品を聴き合い意見交換する。	<u>みとおす力</u> 作成手順を確認し見通しをもって取り組む。 <u>かかわる力</u> 意見交換
第3時	◆音楽の三要素の役割とそれを担う音色や楽器の違いによって変化する雰囲気を捉え、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。 ○旋律、リズム、和音の役割について理解する。 ・いくつかの曲を聴き、どんな楽器がその役割を担っているか、ワークシートに記述する。 ○それぞれを担う楽器を変え、それらが生み出す雰囲気の違いを感受する。 ・同じ曲で、3つのパターンの演奏を聴き、それぞれから感じ取ったことをワークシートに記述する。 ・感じ取った雰囲気の変化が、どのような変化によって生まれているかを聴き取り、気付いたことをワークシートに記述する。 ・他者と意見交換し、自分の意見との共通点や相違点について整理する。	<u>かかわる力</u> 自分の意見を伝え、他者の意見から学ぶ。
第4時	◆音色やテクスチュアを変化させながら雰囲気の変化との関連を捉え、創作へのイメージを持つ。 ○音の重ね方を変化させ、雰囲気の変化を捉える。 ・教師の演奏を聴き、雰囲気の変化について感じ取ったことや、その変化がどのような変化によって生まれているかを聴き取り、気付いたことをワークシートに記述する。 ・音楽ソフトを用いて、様々な楽器や楽器の音色を試しながら、表したいイメージを「アイディアシート」に記述する。	<u>みとおす力</u> 作品のイメージを持ち、それに必要なアイディアシートを作成する。
第5・6時	◆「アイディアシート」を基に、表したいイメージを深めたり広げたりしながら、音楽で表現できるように編曲する。 ○前時に記述した「アイディアシート」を踏まえ、音楽の言葉を手がかりとして、表したいイメージに合うように試行錯誤しながら校歌を編曲する。 ・音楽ソフトを用いて、リズム、伴奏、旋律の楽器や音色の選択を様々に試す。 ・選択した音を使って、リズム、伴奏、旋律を入力する。 ○表したいイメージをより明確に表現するために創意工夫を重ねる。 ・選択した音の重なりを聴きながら、表したいイメージが音楽で表現できているかを確認する。 ・イメージと異なった場合は、どのような修正や改善が必要かを考え、さらに音の重ね方を試す。	<u>みとおす力</u> 作成手順を確認し、見通しをもって作業に取り組む。 <u>やりぬく力</u> 試行錯誤し、イメージ通りの音を探す。

第7:8時	◆同じ曲でも音色やテクスチャ、リズムの違いによって曲想が変わる面白さを味わう。 ○完成に向けて、作品の改善や修正を行う。 ・ 編曲した演奏をお互いで聴きあい、表したいイメージがより明確に伝わる表現にするためにはどのような修正や改善が考えられるか、意見やアドバイスを伝え合う。 ・ 意見やアドバイスを聞いて、修正したい点や改善したい点について考え、新たに構想したことをワークシートに整理し、さらに工夫を重ねる。その際、修正前と、修正後の両方を保存しながら行う。 ○発表に向けて自分の考えをまとめる。 ・ 発表に向けて、自分の考えや作品のポイントをまとめる。 ○作品を聴きあいながらそれぞれの曲の面白さを味わう。 ・ 全体で発表する。 ○題材のまとめと振り返りをする。 ・ 編曲を通して考えたことや感じたことについて意見交換し、自分の考えをまとめる。	やりぬく力 かかわる力 他者の意見や助言を参考にしながら、イメージしている作品を完成させる。 ふり返る力 今回の取り組みを振り返る。
-------	---	---

Check (生徒の様子)

○校歌の演奏を聴いて雰囲気の変化について感じ取ったことを記入しましょう。

1. 子守唄みたいでゆったり、落ち着いた感じ、ずらりしている

2. 元気が明るい校歌 前に進む感じ😊

3. 暗い感じがした。

4. マーチ感があって明るい校歌、伴奏の形がこれまでと違う。

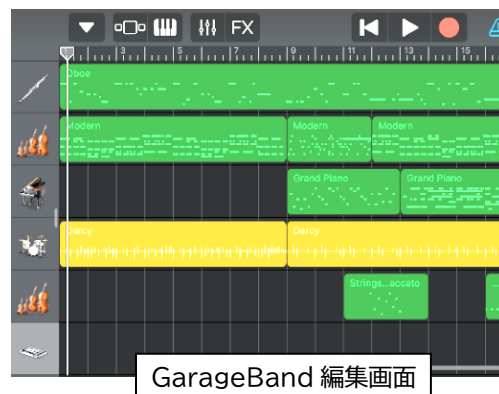
その変化がどのような変化によって生まれているか(音楽を形づくっている要素との関わり)を聴き取り、気づいたことを記入しましょう。

たとえばテンポや音色、伴奏リズムを強化させることで、たとえばこの楽曲に強化をもたらしている。3は1,2,4と違って暗い雰囲気かいたのは、短調にしたからかなと思いました。



私の校歌のポイントは、高校三年間をたどって感じたことを表した歌詞です。表現するため、編曲する上で工夫した点は、有だちと楽しく過ごした高校三年間を明るく元気な感じの表現ができるような音色を明るく落ちついたオーボエの音で、リズムは、明るさの中でも落ちついた感じを出すため、ドラムマシン的なものを選択しました。伴奏はオーケストラの奏法を2種類選択し、歌詞に合わせて調整しました。最初の出だしは音の組み合わせや種類を少なくして、落ちついた場所ではアルペジオでゆったりとした伴奏法を用いました。後半は音数も増やしていき、明るい感じが表現されました。

発表に向けてのまとめ



音が深くて、眠くなるようなおどろとした印象でした。

リズムがゆっくりで、落ち着いている曲だなと感じました。

歌も歌ってくれて、聴いて楽しかったです。3年間、じつは高校生活だったのか表現できていてすごいなと思いました。

お互いの作品を鑑賞した際の感想から

○編曲の活動(完成までの過程)を通して、気づいたこと、考えたこと、感じたことを記入しましょう。

すごしてきた毎日と同じなのにそれぞれ作る人によ、こんなにも雰囲気、構成が、変わることにおどろいたしそれぞれすごし方(感じ方)は違うなと思いました。

高校最初は全てが黒歴史
数学の点数が2点だ
だろ友達は0点だ
少し勇気持てたよ
感謝
これからもう教科書抱きこめ
青春のページめくろうよ

作成した歌詞

○題材のまとめと振り返り【自己評価】

1. 見直しをもって1曲を仕上げることができた。
(A)・B・C)
2. 創作過程で既習の学習を振り返りながら課題を見つけ課題解決に向け工夫することができた。
(A)・B・C)
3. 他の人と対話（意見交換）をしながら課題をみつけ解決に向け取り組むことができた。
(A)・B・C)
4. 表現意図や根拠をもって編曲した作品を発表することができた
(A)・B・C)
5. 他者の作品を鑑賞し、根拠を示した感想（知覚・感受したことを音楽の諸要素と結びつけ表現）が書けた。
(A)・B・C)



学習を振り返り、まとめている様子

■アンケート結果など

作曲に興味がある。

	とても興味ある	やや興味ある	あまり興味ない	全く興味ない
事前	2	0	4	0
事後	4	2	0	0

自分でコンピュータやタブレットを使って作曲が出来ると思う。

	強く思う	やや思う	あまり思わない	思わない
事前	0	1	4	1
事後	4	2	0	0

自分のイメージや感情を言葉で表現することは得意だ。

	強く思う	やや思う	あまり思わない	そう思わない
事前	1	2	3	0
事後	4	1	1	0

自分の可能性は無限大だと思う。

	強く思う	やや思う	あまり思わない	思わない
事前	1	3	2	0
事後	3	3	0	0

授業の事前・事後に行ったアンケートの結果の中で、特に変容のあった項目を抜粋した。授業前は創作活動に対して少し否定的な態度や意見だったが、授業後は肯定的に捉えている。また、言葉で表現することに対する意識や、自己肯定感が高まっているような結果となった。

Action（成果と今後の課題）

■成果

- 作品完成までの見直しを持たせることによってスムーズな取組となり、時間内で全員が作品を完成させることができた。
- 情報共有や助言など、協働的な活動を通してさらに自らの考えを深め、改善、課題解決に向け、主体的に学習に取り組む姿勢が見られた。
- GarageBandを活用することで、多くの音やリズムパターンの組み合わせが容易になり、演奏技能に左右されることなく、創作活動に取り組むことができた。

■課題

- 今回は、3年生の選択授業だったため少人数でスムーズに取り組めた。音楽Ⅰのように人数が多い授業でも同じような取組を考えているが、その際にはグループ編成や座席にもこれまで以上の配慮が必要だと感じた。
- 教科等横断的な視点で系統立てた指導計画を行うと、より効果的になると感じた。

キャリア教育の

教科の中に潜んでいるタネ

- キャリア教育の視点を生徒にも意識させることで、今の学びがどのようにつながっているかを実感し、あまり興味がないことや、苦手意識があることでも、やり抜くことができた。
- 普段の授業をキャリア教育の視点で考えると、授業で身に付けられる「今後に生かせる力」が明確になった。

仕事に①・②・③

ー病院勤務：高江洲さんー

私は音楽から多くのことを学びました。例えば、アンサンブルの中での「かかわる力」が、患者さんとの関わりや、スタッフ同士の連携などに生かされていると感じることがあります。



実践事例7

沖縄県立はなさき支援学校

キャリア教育の視点を踏まえた小中高の国語の授業の連携

～「読み聞かせ会」を通した4つの力「か・ふ・や・み」の育成～

学校紹介

(児童生徒数 小 74 名、中 37 名、高 59 名 計170名・職員数 104名)

学校教育目標(重点目標・目指す児童生徒像)

- ☆心身ともに健康で明るい子
(健康な身体と明るい心を育てる)
- ☆身のまわりのことに主体的に取り組む子
(日常生活を豊かにする生活習慣を育てる)
- ☆心豊かで思いやりのある子
(豊かな情操を育み、コミュニケーション能力を育てる)
- ☆目標をもって最後まで努力し進んで働く子
(ねばり強く最後までやりぬく力を育てる)
- ☆自ら考え学び、行動する子
(自立、社会参加・貢献をめざし、必要な資質、能力、態度を育てる)



今回の「キャリア教育」(取り組み)のねらい

児童生徒の姿を通して付けたい「キャリア教育の4つの力」

- | | | |
|--------------------------|---|----------------------|
| 小:身振り手振りで簡単な言葉を伝えることができる | } | 伝える力(自分の気持ち、学習内容理解) |
| 中:学習意欲や人と関わりたい気持ちを高める | | 表現する力(作品の面白さ、仲間との協力) |
| 高:話す、発表場面で苦手さはあるが、尊重し合える | | 学び合う力(自他の良さ、改善点に気づく) |

カリマネ3つの側面

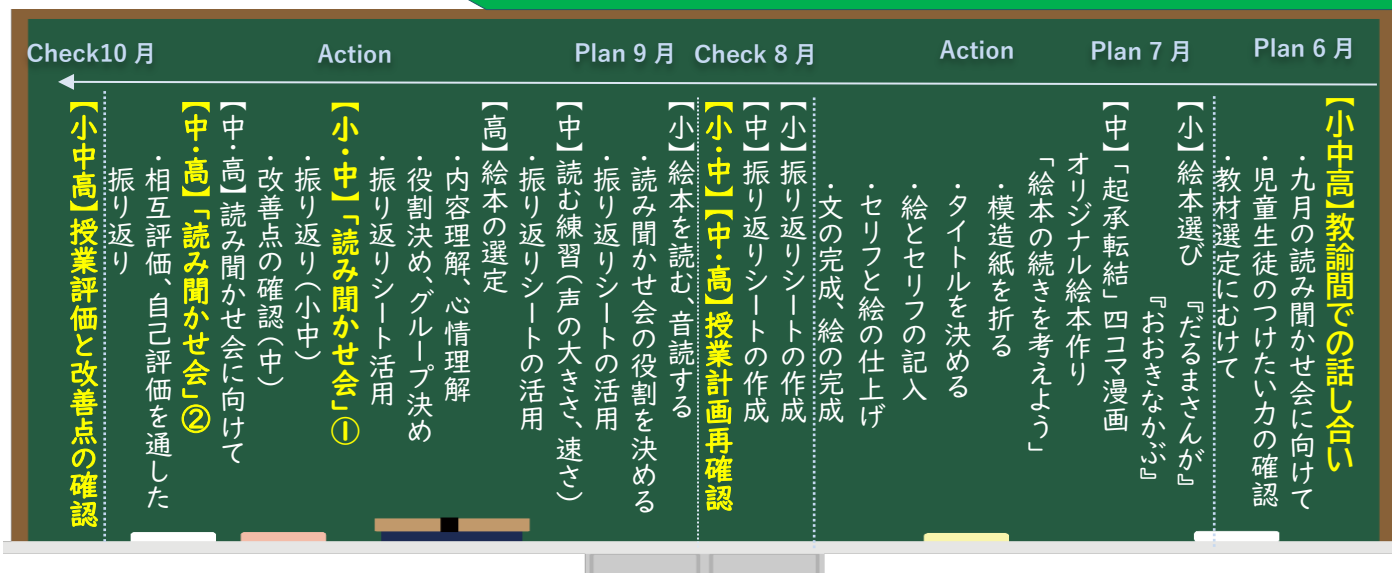
()教科等横断的な視点

(○)PDCAサイクル

(○)人的・物的資源の活用

小中高の各学部間のつながりを活用し、児童生徒のキャリア発達を見通すための教師間連携を深めながら授業展開を行います。

「読み聞かせ会」でつながる小学部・中学部・高等部の国語の授業



Plan (指導計画)

1. 子どもたちの実態・目指す児童像を「か・ふ・や・み」で具体化

「学校教育目標」に照らし合わせて、「キャリア教育の4つの力」で各学部の児童生徒の実態を把握し、「単元に身に付けさせたい力」を明確にしました。 ※ — 囲みは、重点的に身に付けさせたい資質・能力

キャリア教育の視点を踏まえた小中高の国語の授業の連携 ～「読み聞かせ」を通した4つの力「か・ふ・や・み」の育成～			
◆実施学校名	沖縄県立はなさき支援学校	◆学年	① 小学部 6 年・中学部(合同) ② 中学部・高等部(合同)
◆教科名	国語 ①小中学部間での読み聞かせ会 ②中高等学部間での読み聞かせ会	◆時間数	小 ①第 7 時/全 7 時 中 ①第11時、②13時/全14時 高 ②第 6 時/全 6 時
◆単元名	「どきどきわくわく読み聞かせ会」	◆教材名	『だるまさんが』『おおきなかぶ』 『オリジナル絵本』『ふたりはともだち』
◆単元目標			
(1)絵本の読み聞かせにチャレンジする。 (【小】 知・技 2段階(ア)、思・判・表 C 読むこと2・3段階工)			
(2)オリジナル絵本の創作からお披露目を通して達成感を味わうことができる。 (【中】 知・技 1 段階(イ)、思・判・表 C 読むこと 1 段階工、2段階オ)			
(3)話の内容を理解して、工夫しながら読んだり、読後の感想をお互いに伝え合うことができる。 (【高】 知・技1段階(イ)、思・判・表 A 聞くこと・話すこと1段階工、C 読むこと1段階ア)			

	かかわる力	ふり返る力	やりぬく力	みとおす力
小学部	- 自分の考えや気持ちを伝え合う。 - 多様な集団の中で他者と関わる。 - 仲間と協力する。	- 自分や友だちの良い所を見つめる。 - 自分の役割を理解する。	- 最後まで自分の役割をやり通す。 - 最後まで授業に参加する。	自分で、または教師と一緒に自分の目標を決める。
中学部	- 友だち、ペア発表の際、互いに読む場所を決めたり、声の大きさを工夫する話し合いをする。 - 読み聞かせを終えた時に、聞き手と面白かった部分や、印象に残った部分に対し互いに伝え合う。	- 読み聞かせをする前に立てた目標について、自分がどれだけ取り組めたかについて振り返る。 - 聞き手の意見を聞き、次の発表に生かせるよう考え、工夫する。	ペアや個人での読み聞かせにおいて、最後まで読み切る。そして、聞き手の反応を知る。	- 絵本の制作段階から、読み聞かせ会までの一連の流れを見通しながら取り組む。 - 作った絵本を持ち帰り、授業以外(学級や家庭等)で、自ら進んで読み聞かせをする。
高等部	情景や場面の様子、登場人物の心情について自分なりの感想や考えを持ち、それを伝え合うことで読みを深めることができる。	読み聞かせの練習過程において、お互いによさを認め合ったり、助言を受け入れたりして自分の変化に気付くことができる。	先輩として高校生らしい姿を見せたい、自分の役割を果たしたいという気持ちで練習に前向きに参加し、本番を迎えることができる。	聞き手が楽しめる工夫を自分なりに考え、「読み聞かせ会」での目標を意識することができる。
「共通する か・ふ・や・み」	かかわる力 : 学習仲間との関わり、教材との関わりを持とうとする力 ふり返る力 : 目標を意識し、振り返ることができる、仲間のよさや自分の変化へ気付こうとする力 やりぬく力 : 読み聞かせの役割をやり通す意欲、聞き手の反応を受けながら達成感を味わう力 みとおす力 : 自分の目標を決め、進んで取り組もうとする力			

Plan (指導計画)

小学部・中学部・高等部の児童生徒に身に付けさせたい「か・ふ・や・み」の4つの力を整理し、共通理解を図る



キャリア教育の視点

ふり返る力	やりぬく力
・目標を意識し、振り返ろうとする力 ・仲間のよさや、自分の変化へ気付こうとする力	・読み聞かせの役割をやり通そうとする力 ・達成感を味わう力

各学部の取組

	小学部	中学部	高等部
読み聞かせ会に向けて	絵本を選ぼう	「起承転結」の勉強4コマ漫画を見る、書く 絵本の読み聞かせ 続きを書こう	読み聞かせ会に向けて絵本の選定
	絵本を読む練習 文字を読む、声の大きさ 毎時の目標確認、振り返り	オリジナル絵本作り 模造紙を折る、タイトルを記入 原稿用紙を見て、絵とセリフの記入 セリフと絵の仕上げ 文の完成、絵の完成 読む練習(スピード・声の大きさ)	絵本を読む練習 内容理解 心情理解 役割分担 読み方の工夫
読み聞かせ会	中学部との読み聞かせ会 絵本の読み聞かせにチャレンジしよう 先輩の絵本を聞いてみよう	6年生におひろめ、6年生の読み聞かせを聞こう 前時の反省、コメントを見直し、発表の工夫、練習 高等部の先輩へのおひろめ 先輩の読み聞かせを聞く 読み聞かせの振り返り	中学部との読み聞かせ会

教師の意図

- ・他者との関わりを広げることを通して、絵本を読む学習において、さらに読み深めてほしい。
- ・自分の役割を通して、できることや良さを発揮し、それをやり抜くことで達成感や自信を高めてほしい。

教師の手立て

- ・本時の目標と、前後の学習活動のつながりを視覚的に示しながら意識付け、意欲を高めていく。
- ・児童生徒の実態に応じた、知識及び技能における目標設定や振り返りを工夫する。
- ・発達段階に応じて、絵本の内容理解の深め方や学習展開の工夫を行う。

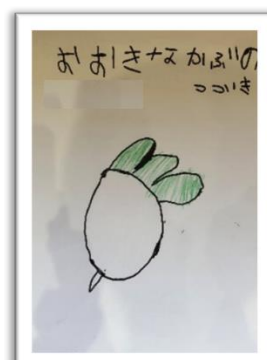
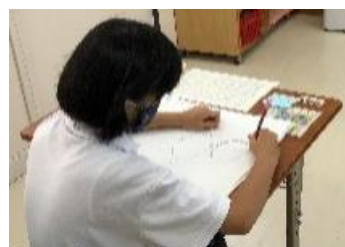
児童生徒像

- ・期待感を持って、教材や他者と関わり、できること、よさを発揮しながら達成感を味わう姿。
- ・一連の学習活動を通して、主体的、意欲的に学習に取り組む姿。

■小学部(読み聞かせ会に向けて)



■中学部(小学部が選んだ絵本の続きを創作)



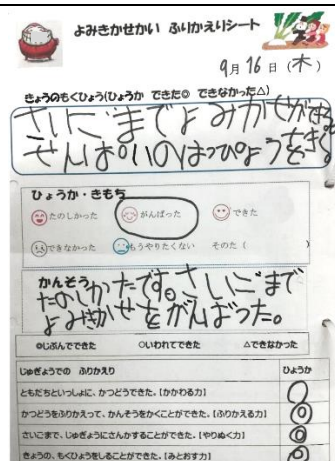
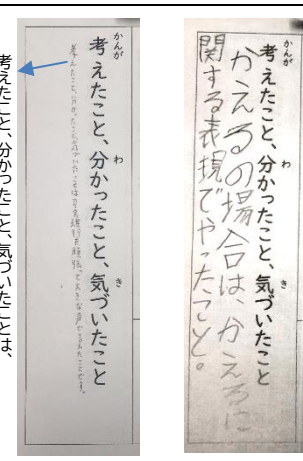
Do(実践研究 1 小学部&中学部による合同学習 令和3年9月16日実施)

過程	学習の流れと児童の活動	キャリア教育の視点
導入	○はじめのあいさつ ・小学部、中学部そろっての顔合わせ。 ○出席確認 ・発語、発声、身振りにて体調の確認を行う。 ○本時の学習の流れ、目標の確認 ・学習の流れをテレビ画面で提示する。 ・前時で予告していた内容を教師が視覚的に示しながら、小学部、中学部の児童生徒の目標を確認する。 合同授業への期待が高まるように導入部でそれぞれの取組を説明。 	<u>かかわる力</u> ・異なる集団、学習グループの中で、他者と関わるることができる。 <u>みとおす力</u> ・前時の学習とのつながりと取組内容の理解を促し、本時の目標を意識することができる。
展開	○小学部児童(『だるまさんが』) ・短い言葉かけや絵本を支える等、最小限の支援に徹し、2名の児童が生き生きと表現できるようにする。 自分の出番が分かる。文字に注目したり、なりきることで、表現を楽しむ児童。 ○中学部生徒(オリジナル絵本) 『だるまさんが まだまだつづく』 どんな続きとなるのか、期待が高まる瞬間。身を乗り出して聞く児童生徒、教師たち。 ○小学部児童(『おおきなかぶ』) 教室での学習が、本番でも生かされていた。場面によって動物の鳴き声をいれるなど、児童が笑顔で(楽しみながら)読み方を工夫する姿も見られた。 ○中学部生徒(オリジナル絵本)『おおきなかぶのつづき』 自分の力作を披露する場面でもあり、代表の生徒にとっては緊張も高まる。代表生徒は、「きんちょうした。なきそうだった。」「もういっかいやりたいです」「先輩によりみかせたいです」と振り返る。    	<u>かかわる力</u> ・仲間と協力する。 <u>やりぬく力</u> ・自分の順番が来た時に最後まで自分で選んだ絵本、制作した絵本を読むことができる。 ・最後まで学習に参加する。 小学部の児童にとっては、普段の異なる環境で行われる授業に最後まで参加し続けることが目標となる場合もある。継続して興味を持たせるために、テレビ画面に映して絵本に注目させることにも留意している。
終末	○学習の振り返り ・それぞれの読み聞かせに対する感想発表。 ・学部ごとに設定した目標についての教師からの質問や問い返しを受けて、目標を達成できたかを発表する。 ・中学部の生徒のオリジナル絵本で印象に残った場面や感じたことなどを発表する。 中:教師の支援を受けながら気に入っている所を紹介したり、説明することができた。 小:印象的な場面をめくって読み返すことで、伝えることができた。 ○終わりのあいさつ  	<u>かかわる力</u> ・自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。 <u>ふり返る力</u> ・自分の役割を振り返ったり、自他の良い所を見つけたりすることができる。 <u>やりぬく力</u> ・最後まで授業に参加することができる。 <u>みとおす力</u> ・次の活動への見通しを持つことができる。

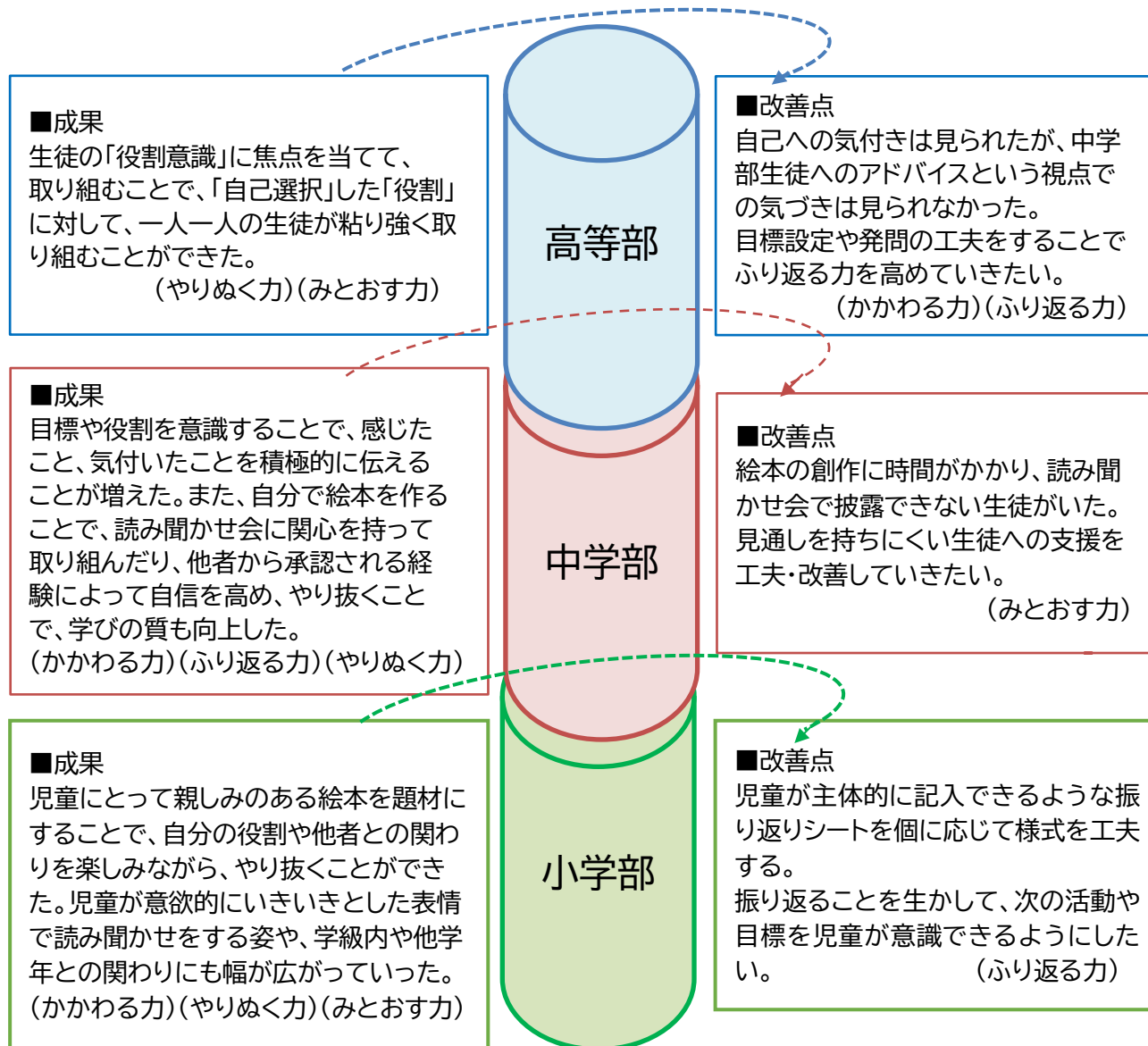
Do(実践研究2 中学部&高等部による合同学習 令和3年9月30日実施)

過程	学習の流れと児童の活動	キャリア教育の視点
導入	○はじめのあいさつ、出席確認 ○本時の学習や目標確認 ・学習の流れを視覚的に提示する。 ・各学部ごとに目標の提示と確認を行う。 中:最後までオリジナル絵本の読み聞かせができる。 先輩たちからアドバイスをもらい今後につなげる。 高:「役割」を意識して読み聞かせをする。 気付いたことや感じたことを伝え合う。 高:「役割」を決めるに当たり、司会、読み聞かせの配役やタブレット操作、進行などの内容を理解し、自分で決めることに留意した。人前に出ることが苦手な生徒、自分で決めることが苦手な生徒も含め、互いに学び合う学習環境を作り上げる視点を重視した。   	<u>かかわる力</u> ・他学部との関わりとの期待感や前時のつながりを意識し、意欲的に学習に参加することができる。 <u>みとおす力</u> ・前時とのつながりを理解している。 ・本時の目標や学習内容を理解し、学習の心構えを持つことができる。 ・自分の目標を立て、意識することができる。
展開	○中学部「読み聞かせ」 ・オリジナル絵本の読み聞かせを行う。 『まだまだつづく だるまさんが』 『おおきなかぶのつづき』 中:前回のつながりから、期待感を持って臨む生徒が多く、自分の出番や声の大きさにも気を付けて取り組んでいた。 ○高等部「読み聞かせ」 ・役割分担を選択し、『ふたりはともだち』に臨む。 高:タブレットによる画面操作では、内容を理解しながら相手に合わせる力が求められ、読み手を選んだ生徒は登場人物になりきることができることを心がけて読むことができた。   	<u>かかわる力</u> ・場面の様子や登場人物の心情を想像しながら読むことができる。 ・仲間と協力することができる。 <u>やりぬく力</u> ・役割を理解し、最後まで自分の役割をやり通すことで、成功体験、達成感を味わう。
終末	○目標をふまえた振り返り ・良い点や気付いた点、感想等を発表する。 中:率先して挙手し、先輩の名前を挙げながら、「〇〇先輩が上手だった」「すごかった」と伝えていた。小学部との読み聞かせ会からの連続したつながりもあり、意欲や期待感が振り返りでの発表という形でも表れていた。教師の問い返しに応えながら、自らの絵本の気に入っている場面を示す姿も見られた。 高:中学部の積極的な様子に刺激を受けて、高等部の生徒もマイクを向けられると、タイミングに合わせて感想を伝えることができた。     	<u>ふり返る力</u>・<u>かかわる力</u> ・読み聞かせ会を通して、自分なりの感想や考えを持ち、発表することができる。 ・お互いに良かったところを認め合うことができる。
○終わりのあいさつ ・互いに向か合って、あいさつ。振り返りシート記入		

Check (児童生徒のふり返しシート・教師間の協議より)

	小学部	中学部	高等部
児童生徒の振り返りシート		3 小学部の先輩からのアドバイス さいかい ききいってくれ？ うれいれいず。 Sさんがすきっていつてくれうれいれいず。 3 高等部の先輩からのアドバイス ろうとうのせんぱいからのおじい 1すいこえかいおきさくていようすだ っていいました。 高等部の先輩からのアドバイスで声が大きくて上手だねって言っていました。 4 次の「読み聞かせ」の時に頑張りたいこと つものふみぞかせはしようかい たきこえるまさんのつづきもよんで、 あけたいです。 つぎの読み聞かせは小学部たちに「だるまさん」のつづきをよんであげたいです。	
考察	自分の気持ちを伝えることが目標の A さんは、気持ちでは「がんばった」を選択し、感想では「たのしかったです。さいごまでよみかせをがんばった」と記入。 自分の気持ちを伝えることができた。 (ふり返る力) ペアで挑戦した児童 2 名は、読み手とパープサートで表現する役割を互いに意識して協力し合うことができた。 (みとおす力・かかわる力)	小学部児童から「好き」と感想を伝えてもらったことが、自分の喜びとなっている。 (かかわる力) 小学部との合同授業の時に欠席だった C さんは、高等部の先輩から、声の大きさや「上手」と言われたことが、自信にもつながり、「4」の項目では、さらなる意欲へと高まっている。 (やりぬく力・みとおす力)	役割を自分で選択、決定したことで、人前で発表することの苦手な D さんが司会進行を選び、「大きな声でできた」と自分の成長に気付くことができた。 (やりぬく力) 絵本の読み手となった E さんは、役になりきるということを意識していたことが分かる。 (ふり返る力) 読み手を意識してタブレット操作する姿や、役割を決めるまでに時間を要した生徒が、重要な役割を選び、取り組めた。 (やりぬく力・かかわる力)
	小中高の教師間による振り返り	中学部 オリジナルの絵本を作っていくうちに「自分の本」という意識が芽生え、「読み聞かせしたい」という気持ちが向上してきました。本番でも緊張のなか最後まで「やりぬく」ことができました。 消極的な生徒や発表に不安のある生徒が、他者へ読み聞かせ体験を通し、他者に承認され、自分の作品に自信が持てた。そこから、他者の意見や録画ビデオをみることで、自らの姿を振り返り、「校内放送や他のグループとやりたい」との意見がでた。「かふやみ」を通し、学びに向かう姿勢が向上したと考える。	小学部 今回 3 名の児童それぞれが自分の役割を児童なりに理解し「やりぬく」ことができたと思う。児童が意欲的にいきいきとした表情で読み聞かせをする姿が印象的だった。仲間や先輩への関わりをもっと持てるように工夫していきたい。  高等部 「かふやみ」の視点で授業を行うことは、生徒にゴール(目標)を明確に提示することを意識した授業なのかと感じました。ゴールが見えると、走ることに集中できたり、ゴールまでの距離を自分で確認できたり、競技に参加しようと前向きに取り組めたり…。「かふやみ」の視点で、生徒が「参加したい」と思う授業実践に生かしていきたいと思いました。

Action (成果と今後に向けて)



キャリア教育の

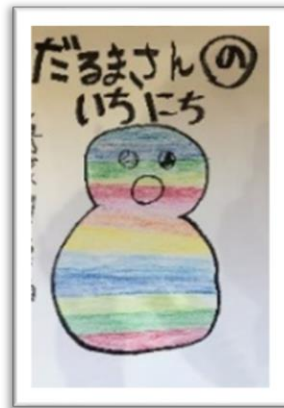
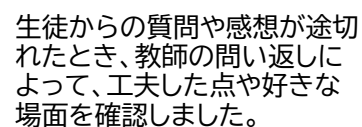
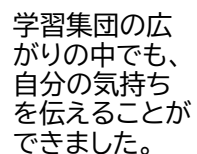
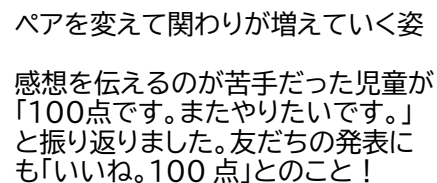
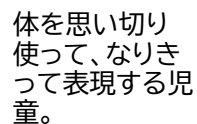
教科の中に潜んでいる タネ

- 本実践は、中学部が中核となって取り組んだ、小中高の連携した授業展開となります。中学部の国語の取組(オリジナル絵本)を中心に、「小・中」、「中・高」の学びが「かふやみ」の視点でつながりました。
- 児童生徒の中に、「もっとやってみたい」「次はこうしたい」という意欲が高まる姿が見られました。教材の工夫や教師間の連携の中に「かふやみ」の視点を入れることで、予想以上の学びへと発展していく姿を見ることができました。

その後のうれしい展開



- ★小学部の児童は、参観日に保護者の前でも読み聞かせを披露したり、低学年のクラスでも読み聞かせを行ったりしたそうです。後輩の楽しそうに聞く様子から、退出時には元気な声で「ありがとうございました」とあいさつしたそうです♪
- ★中学部と高等部は、第2弾も企画したいとのこと。中学部の生徒の意欲は「校内放送をしたい」という発言が出るほど、高まりを見せたそうです！



中学部生徒が創作した絵本(小学部の児童が読み聞かせてチャレンジする絵本の続きに取り組みました)

					令和	年	月	日（ ）	()
					氏名				
① 学習に向かう態度 身なり／＼と整頓(せいとん)されている。授業中に、 きく／＼と静かに聞いています。	◎ ^{50点満点}	◎ ^{50点満点}	◎ ^{50点満点}	◎ ^{50点満点}					
② すらすらで学習することができた。 (よくできている)	○ ⁶⁰	△ ⁶⁰	× ⁶⁰	×					
③ 目標を意識して取り組むことができた。 (よくできている)	○ ⁶⁰	△ ⁶⁰	× ⁶⁰	×					
④ 苦手な学習でも最後まで取り組むことができた。 (よくできている)	○ ⁶⁰	△ ⁶⁰	× ⁶⁰	×					
考えたこと、分かったこと、気づいたこと									

高等部 振り返りシート

V 成果物の発信

1 キャリアの視点で見直した授業例の作成

県基本方針に基づき、キャリア教育の4つの力（か・ふ・や・み）を踏まえて、「学び・育ちの実感」を高めるための教育実践・参考資料として活用を図ることを目的に授業例を作成した。作成に当たっては、認定こども園、小学校、中学校、高等学校で現在取り組まれている実践を、キャリア教育の4つの力で捉え直したものを10本掲載する（表7）。実践事例の詳細は、本総合教育センターのWebページよりデータをダウンロードし、各学校の実態に応じて活用できるようにした。

表7 キャリアの視点で見直した授業例一覧

校種	教科	校種	教科	校種	教科・科目
認定こども園	協同あそび（2本）	中学校	社会	中学校	家庭
小学校	生活	中学校	理科	高等学校	地理歴史・公民
小学校	算数	中学校	技術	高等学校	工業

2 ポスター作成の内容と構成

本研究の目的の1つは、研究の成果や具体的な取り組みが、各学校の目指す児童生徒像の具現化へ向けた教育活動へつながるよう発信方法を工夫することである。今年度は、各実践事例に簡単にアクセスできるようQRコードを掲載したポスターを作成することとした。

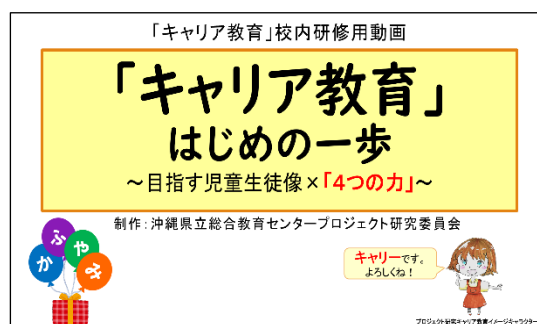
ポスターは、A2サイズで作成した（次ページ参照）。各実践事例は、プレゼンテーションツールを活用し、取組の様子を動画や写真、指導案などを掲載する。それらは、ポスターに掲載されたQRコードから全ての実践事例にアクセス、ダウンロードできるようになっている。

3 校内研修パッケージ「キャリア教育ははじめの一步」の内容と構成

キャリア教育の4つの力を学校教育活動の指導場面において意識することで、その学校教育活動で身に付けさせたい力や活動そのものの捉え直しや見直しが明確になり、「学ぶ意義」や「学び・育ちの実感」を積み重ねていく学校教育活動の工夫・改善につながる。そこで、キャリア教育に取り組む際の進め方を校内研修パッケージ「キャリア教育ははじめの一步」として作成した。各学校がキャリア教育に取り組む際、校内研修が進められるような内容（ワークショップ）となっている。内容と構成は以下のとおりである（図3）。

- (1) スライド資料
- (2) ワークショップの進め方に関するシナリオ
- (3) 入力シート（掲示用）

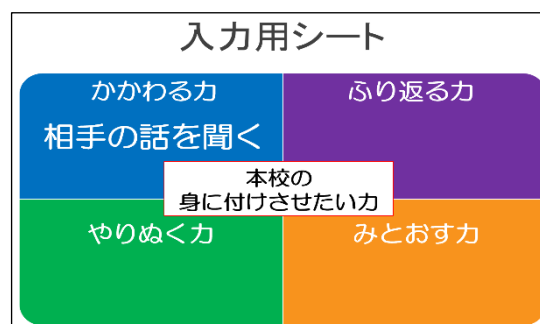
◆スライド資料



シナリオ（例）

- ① 4つの力を具体的な姿で捉えてみましょう。まずは、10分間、各自で考えてみましょう。

◆入力シート例（掲示用）



話し合った中から重点を決め、シートに入力すると、掲示物として活用できます。



図3 校内研修パッケージ「キャリア教育ははじめの一步」

沖縄県立総合教育センター

ふ や か め を意識した授業が
キャリア教育
につながります



きゃりーちゃん

キャリア教育の
実践をお届けします！
QRコードを
クリックしてみてね！

かかわる力



ふり返る力



やりぬく力



みとおす力



ダウンロード資料

説明動画、指導案、ワークシート等を提供しています！

【認定こども園】

協同あそび

【小学校】

特別活動、生活、算数

【中学校】

数学+特別活動

音楽+特別活動、外国語

社会、理科、技術、家庭

【高等学校】

芸術（音楽）

保健体育

社会、工業

【特別支援学校】

小・中・高等部における

連携授業（国語）

～読み聞かせを通して～

【校内研修レシピ】

* 研修用動画

『『キャリア教育』

はじめの一步』

* シナリオ・入力シート

ダウンロード資料は
こちらから



TEL 098-933-7595

URL

www.edu-c.open.ed.jp（本センターWebページ）

Ⅵ 考察

本研究においては、県基本方針で示されたキャリア教育で身に付けさせたい4つの力「かかわる力・ふり返る力・やりぬく力・みとめす力」を学校教育活動の指導場面において意識することで、学校教育活動の工夫・改善につながると考え実践を行ってきた。研究協力校における取組の様子や児童生徒の変容、成果と課題は各実践事例内に掲載されているので、授業実践の参考としていただきたい。

本項においては、研究協力校共通で実施した児童生徒アンケート（はなさき支援学校は除く）と、児童生徒の振り返り記述や発言、行動観察、研究協力員の振り返り等から「自分のよさや可能性を認識し、自分のよりよい未来のために成長し続けようとする姿」について考察する。

1 児童生徒共通アンケートより

「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して「当てはまる」と回答した児童生徒が、実践後は約14ポイント増加した（図4）。各実践において、視点を明確にしたペア・グループによる話し合い活動やアドバイスタムの設定により、問題解決につながったという経験を積み重ねてきた成果が表れていると考える。「よりよい解き方を考え合ったことで自分にあった式や説明を身に付けられた。1人では納得しない問題も皆で考え合いサポートし合えた。（嘉手納中学校1年）」という振り返りからも、話し合う活動を通じて様々な意見に出合い、考えを深めることができたと捉える。

「見通しを持って計画的に進め、改善を図っている」の項目について肯定的に回答した児童生徒が、実践後は約10ポイント増加した（図5）。これは、各研究協力校の実態から「みとめす力」と「ふり返る力」に課題があると捉え、特にこの2点を意識した実践を通して、目指す児童生徒像に近づくことができたと考える。コザ中学校（特別活動）では、実践を通して「学級で成果と課題を考える習慣が身に付いていく様子が見られ、生徒の仲も深まり、カレンダーを見てスケジュール管理をする生徒の姿が見られるようになった。」という協力員の見取りがあった。これは、三線合奏コンクールに向けて設定した「になりたい自分・学級の目標」に対して学級活動で中間振り返りを設定し改善点を音楽の授業でも意識させたことにより、PDCAサイクルが身に付いてきたと捉える。

「目標に向かって努力し、生活や勉強の仕方を工夫している」の項目について肯定的な回答をした児童生徒が実践後は80.9%となった（図6）。これは、自分に必要な学習を工夫して行う

（長田小学校）、単元の始めにパフォーマンス課題の概要を明確にして学習を進める（コザ中学校：外国語）、「今、何をしているのか」を生徒に意識させる（北中城高等学校）等の取組が、このような結果に結び付いたと考える。また、はなさき支援学校では、実践後に中学部の生徒から「校内放送で自作絵本の読み聞かせをしたい」という発言が出る等、新たな目標に向けて工夫改善を行う姿も見られた。このような研究協力校での児童生徒の姿から、自分の取組状況を振り返ることで客観視でき、目標に近づけたことで自信が持て、意欲の高まりや主体的な活動につながったと考察する。

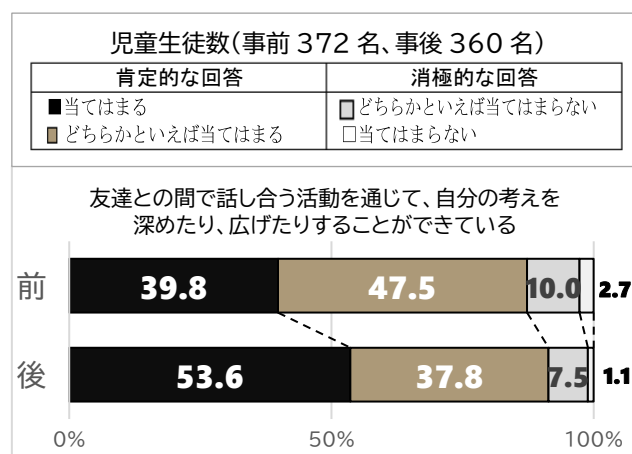


図4 話し合う活動を通じて、考えを深めたり広げたりすることができている

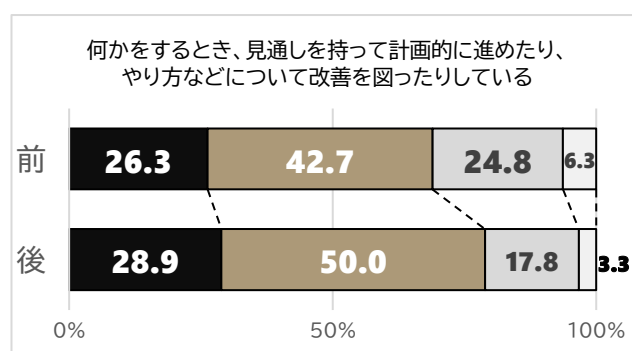


図5 見通しを持って計画的に進め、改善を図っている

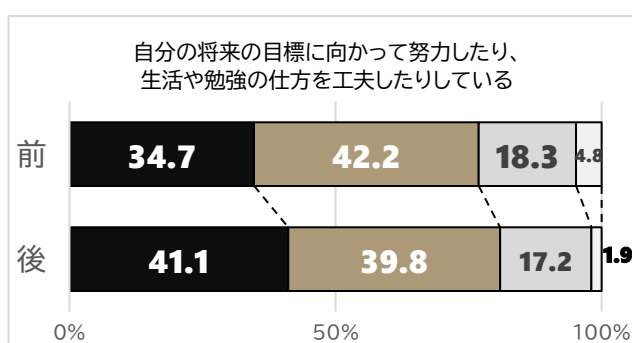


図6 目標に向かって努力し、生活や勉強の仕方を工夫している

「学校での学びと将来のつながりを考えている」について肯定的に回答した児童生徒は、実践後は75.6%となった（図7）。詳しく分析してみると、小学校と高等学校では肯定的な回答が90%を超えており、将来の夢と学習のつながりを可視化した取組（長田小学校）や、生徒にとって関心の高いコロナワクチン接種を題材とした取組（那覇西高等学校）により、学びを自分ごととして捉えることができたと考ええる。一方、中学校の生徒の回答は教科によるばらつきが見られ、消極的な回答も他校種に比べて高い傾向にあることから、全ての教科において学ぶ意義を明確にした取組の継続が必要であると考ええる。

「自分にはよいところがある」について肯定的に回答した児童生徒は、実践後は82.3%となった（図8）。事前調査と比較すると向上した姿が見られたものの、約18%の児童生徒が自分のよさを認識できていない。「一人一人のよさを未来へつなぐ」観点からも、自分のよさを肯定的に捉えることができる取組を継続する必要がある。

2 研究協力員のアンケートより

実践後、研究協力員に「キャリア教育の視点で授業づくりを実施したことについての気付き」を問うアンケート調査を行った。その調査で聞き取った内容を以下にまとめた（図9）。

- ・「今日の学習はどんな時に使えそうか」等、教科の学びが将来につながっていることを実感できるように問いかけることが増えた。
- ・より広い視点で単元計画を作成することができ、全教科に通じる「付けたい力」の育成につなげることができた。
- ・「みとおす力」を意識させることで、生徒が積極的に授業に参加する姿が見られるようになった。
- ・教科書の内容を身近な問題と捉え、自分の考えを持ち、友達と意見交換することで考えを広げ、さらに自分なりに考えをまとめる子も多く、子供たちにとっても内容の濃い単元の授業ができた。
- ・学級で成果と課題を考える習慣が身に付いていく様子が見られ、継続していく大切さに改めて気付いた。
- ・キャリア教育は、これまで進路指導の一環としてLHRや総合的な探究の時間などで行うものだと思っていたが、日々の教科指導の中でも年間を通して継続的に実施が可能であり、教師側がキャリア教育の視点を持って意識的に授業づくりをすることで、普段の授業で容易に取り組むことができると感じた。
- ・自分の役割を児童なりに理解しやり抜くことができた。児童が意欲的にいきいきとした表情で読み聞かせをする姿が印象的だった。
- ・「校内放送や他のグループと（読み聞かせを）やりたい」との意見があり、「かふやみ」を通し、学びに向かう姿勢が向上したと考える。
- ・「かふやみ」の視点で授業を行うことは、生徒にゴール（目標）を明確に提示することを意識した授業なのかと感じた。

図9 研究協力員のアンケート調査より

本研究を通して、様々な教科や活動場面で指導者がキャリア教育の視点を意識して実践を行うことで、各教科等で身に付けさせたい資質・能力の育成につながったと感じていることがアンケート調査からわかった。一方、「全職員体制でキャリア教育の視点による授業実践の確認をしたい」との意見もあり、今後の課題であると考ええる。

Ⅶ まとめ

1 成果

- (1) キャリア教育で身に付けさせたい4つの力「かかわる力・ふり返る力・やりぬく力・みとおす力」を学校教育活動の指導場面において意識することで、児童生徒が目的意識を持ち、友達と関わることで様々な意見に出合い、考えを深めたり主体的に学習や行事に取り組んだりする姿が見られた。

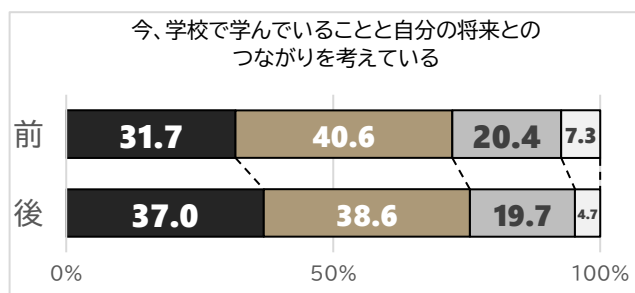


図7 学びと将来とのつながりを考えている

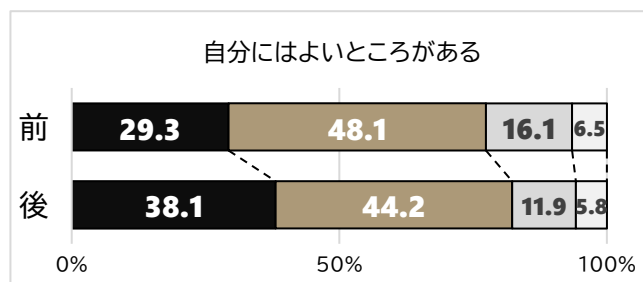


図8 自分にはよいところがある

また、教師がキャリア教育の視点を意識した実践に取り組んだことで、授業改善につながった。

- (2) 各実践事例に簡単にアクセスできるようQRコードを掲載したポスターを作成し、プレゼンテーションツールを活用して取組の様子や指導案等を提供することで、各学校での利活用を促進した。

2 課題

- (1) 児童生徒の「今」と「これから」を結び付け「学ぶ意義」を明確にした授業づくりと、児童生徒が「自分のよさ」を認識し自己肯定感を高める取組の継続が必要である。
- (2) 学級や学年、各教科だけの取組だけでなく、学校全体としての取組が必要である。

3 今後に向けて

本研究は「一人一人のよさを未来へつなぐキャリア教育の在り方ーカリキュラム・マネジメントの視点を通してー」をテーマとし、2年間研究を行ってきた。本研究では、各教科や特別活動において、将来の夢と学びを結び付ける実践や教科等横断的な取組、学校行事と関連付けた取組等、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校におけるキャリア教育の実践を提案することができた。今後はキャリア・パスポートの活用方法も含めた実践研究を進めていくことが必要であると考えます。

次代を担う子供たちが自身の未来を切り拓きよりよく生きていくためには、学校での学びと未来をつなぐキャリア教育が必要不可欠である。各学校においては、社会で自立していくために必要な基礎的・汎用的能力である「か・ふ・や・み」の視点を意識した教育活動を、組織的・継続的に進めていくことを願う。本研究が、子供たち一人一人のよさを未来へつなぐ一助となることを期待して、本研究のまとめとする。

〈参考文献〉

- 沖縄県教育委員会 2021 「〔令和3年度版〕沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ～学びの質を高める授業改善・学校改善～」
- 沖縄県立総合教育センター 2021 「一人一人のよさを未来へつなぐキャリア教育の在り方ーカリキュラム・マネジメントの視点を通して（1年次）ー」
- 橋谷由紀 2021 「キャリア教育の充実」 文部科学省教育課程課・幼児教育課編 『初等教育資料2月号 No.1004』 東洋館出版社
- 沖縄県教育委員会 2020 「沖縄県キャリア教育の基本方針」
- 杉田洋 稲垣孝章 2020 『特別活動で、日本の教育が変わる！特活力で、自己肯定感を高める』 小学館
- 藤田晃之 2020 『キャリア教育フォービギナーズ「お花畑系キャリア教育」は言われるほど多いか？』 実業之日本社
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター 2019 『みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動小学校編』 文溪堂
- 世田谷区立尾山台小学校編著 2019 『小学校だからこそ！キャリア教育！世田谷区立尾山台小学校の挑戦』 長田徹監修 実業之日本社
- 藤田晃之編著 2018 『キャリア教育』 ミネルヴァ書房
- 杉田洋編著 2017 『中学校新学習指導要領の展開 特別活動編』 明治図書
- 藤田晃之編著 2017 『中学校新学習指導要領の展開 特別活動編』 明治図書
- 高槻市立赤大路小学校・富田小学校・第四中学校編著 2015 『ゼロからはじめる小中一貫キャリア教育ー大阪府高槻市立第四中学校区「ゆめみらい学園」の軌跡』 藤田晃之監修 実業之日本社
- 藤田晃之 2014 『キャリア教育基礎論ー正しい理解と実践のためにー』 実業之日本社

〈参考WEBサイト〉

- 文部科学省 中央教育審議会答申 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（平成28年12月）」
- https://www.next.go.jp/b_menu/chukyo0/toushin/138071.htm （最終閲覧：2021年12月）
- 文部科学省 中央教育審議会答申 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（平成23年1月）」
- https://www.next.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1315467.htm （最終閲覧：2021年11月）
- 文部科学省 中央教育審議会答申 「今後の初等中等教育と高等教育の接続の改善について（答申）（平成11年12月）」
- https://www.next.go.jp/a_menu/shotou/career/050150502/001.htm （最終閲覧：2021年11月）
- 藤田晃之 2020 「新学習指導要領で求められる最新キャリア教育」・教育オピニオン・明治図書オンライン「教育zine」

プロジェクト研究

<https://www.meijitosh.co.jp/eduzine/opinion/?id=20200012> (最終閲覧: 2021 年 12 月)

藤田晃之 2019 「Career Guidance Vol.427」 Recruit

<https://shingakunet.com/ebook/cg/427/html5.html> (最終閲覧: 2021 年 11 月)

長田徹 2019 「Career Guidance Vol.428」 Recruit

<https://shingakunet.com/ebook/cg/428/html5.html> (最終閲覧: 2021 年 11 月)

NPO 法人スマイルプラネット 2016 「キャリア教育情報誌『つ・な・ぐ』(全 6 号)」 NPO 法人スマイルプラネット

https://www.smileplanet.net/career_portal/download.html (最終閲覧: 2021 年 12 月)